

令和2年度使用

中学校教科用図書の
選定に必要な資料

教科用図書益田採択地区協議会

各発行者記号は、次のとおりである。

A	東京書籍	K	帝国書院
B	大日本図書	L	大修館書店
C	教育図書	M	新興出版社啓林館
D	開隆堂出版	N	数研出版
E	学校図書	O	日本文教出版
F	三省堂	P	学研教育みらい
G	教育出版	Q	自由社
H	教育芸術社	R	育鵬社
I	清水書院	S	学び舎
J	光村図書出版		

選 定 に 必 要 な 資 料

(国語)科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<p>○つけたい力の定着に向けて段階をおって学習できるように、内容、分量、配列が考えられている。(3年p. 32、37、38)</p> <p>○本編、巻末の基礎編、資料編に分かれており、関連した学習や発展学習、自主学習ができるように内容を精選して掲載されている。</p> <p>○心の動きがとらえやすい文学作品が精選されている。文学作品では、同じねらいで短編の次に長編を掲載する等、段階をふみ、力をつけていくことができるよう工夫されている。(1年p. 36、41)</p>	<p>○ものの見方や考え方を学ぶ文章、説明文、ドキュメンタリー等、様々な分野の学習材を取り上げている。(1年p. 98、2年p. 60、3年p. 184等)</p> <p>○学習材末にてびきのページを設け、「つけたい力」が明記してあり、その詳しい解説が巻末基礎編「学びを支える言葉の力」に載っている。既習事項を使つての練習問題もあり、その学習材でつけた力の定着をはかる工夫がされている。(1年p. 106、236、238)</p>	<p>○「用言の活用 ばらばら動詞カードをかたづけろ」のように興味をもつて取り組めるような導入の工夫がされている。(2年p. 77)</p> <p>○キャラクターを登場させ、共に考えていくスタイルをとるなど、学習材を身近に感じることが出来るよう工夫されている。</p> <p>○「学びの扉」で問いや謎をなげかけるなど、考える意欲を喚起する工夫がされている。(1年p. 54、171)</p>	<p>○「読書への招待」から「読書案内」、「読書活助を楽しもう」と、本に趣味をもち、図書館を活用した学習に意欲的に取り組めるような工夫がされている。(3年p. 84、90、284)</p> <p>○各学年の巻頭の折り込みで「教科書の使い方」や「一年間で学ぶこと」がわかりやすく色分けして示してあり、ガイドンスで使い見通しをもつことができる。新しい単元にはいるごとに、「つけたい力」を一覧表や図で確認できる。</p> <p>○実践力をつける課題が掲載されている。(1年p. 239、241)</p>	<p>○巻末には発展的な学習が円滑に行われるよう、手順や例を示したものを掲載している。(1年p. 283)</p> <p>○「広がる言葉」「広がる漢字」等、既習の学習材と関連させながら語彙力や表現力をつけるよう工夫されている。ヒントとなるものも巻末にあり、自学しやすいような配慮がしてある。(1年p. 53、299)</p> <p>○「情報の調べ方」と題し、情報を効果的に調べ方法をもつて示している。(1年p. 268)</p>	<p>○「著作権と引用」など、国語学習を行う上で必要とされる知識がわかりやすく解説されている。(1年p. 298)</p> <p>○手書き文字を取り入れる等、実際の活動のイメージをもたせ、意欲を喚起させるような工夫がみられる。(1年p. 72、266)</p> <p>○基礎編に文法解説、資料編に本編以外のさまざまな古典作品の冒頭部分を掲載している。</p> <p>○資料編に発展的な内容として古典の文法が掲載されており、中学校での古典学習と関連させて参考にすることができる。(3年p. 294)</p>	<p>○巻頭に季節を表す写真や言葉、行事の説明がカラーで掲載してある。古典作品のページでは表紙の写真に掲載する等、興味を持つための配慮、豊かな感性を育むための工夫がみられる。(1年p. 141、182)</p> <p>○本編と基礎編、資料編と分かれており、関連させながらつけたい力を育てていくよう工夫されている。</p> <p>○一年間の学習の流れが明確に示してあり、見通しをもつて学習に取り組むことができる。学習材末の「てびき」で学習のポイントをつかみ、深めていくことができる。</p>
E	<p>○関連のある2つ以上の文学作品を各単元ごとに配置し、比較したり関連付けたりしながら多くの作品に触れられるよう工夫されている。(1年p. 22)</p> <p>○単元毎のテーマにあわせて文学的文章を配置し、その文学的文章に関連した言語活動を学習することができるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年とも、共通した5つのテーマごとに学習材を用意し、3年間で段階的に言語活動が行えるよう工夫されている。</p> <p>○「発見する読み」として段階に応じて課題を提示し、文学作品の読みを深めていけるよう工夫されている。(1年p. 250)</p>	<p>○「古典に親しむために」として古典文法や古語の解説等を巻末の資料に置き、生徒が古典に興味・関心を持てるよう工夫されている。(2年p. 306～313)</p> <p>○「漢字を見抜く」では同じキャラクターを登場させ、継続性を感じさせるよう工夫されている。(1年p. 48、92、152、206、254)</p>	<p>○「読書案内」として本の関連性を例示し、幅広い読書を行うためのきっかけ作りとなるよう工夫されている。(1年p. 282)</p> <p>○長い文章の作品を上下二段で分け、読みやすくなるよう配置されている。(2年p. 118)</p>	<p>○「竹取物語」では古文と現代語の解説を掲載するだけでなく、問題提起をすることで、生徒が興味を持ち、発展的に学習を行えるよう工夫されている。(1年p. 179～181)</p> <p>○各単元に選択教材を配置し、発展的補充的に学習を行えるよう工夫されている。(2年p. 16)</p>	<p>○各学年の巻末の折り込み資料に発展的学習として口語・文語活用対照表を掲載している。</p> <p>○3年生の「文字を見抜く」の最後に手話や指文字を取り上げることで、1年生で学んだ漢字や2年生で学んだ語とのつながりを感じさせながら文字についての見解を深めることができるよう工夫されている。(3年p. 251～254)</p>	<p>○選択教材を含め、多種多様なジャンルの文学作品に3年間で触れられるよう工夫されている。</p> <p>○「学びの窓」を用いることで、生徒が文学作品を「読む前」と「読んだ後」で考え方の変化を振り返ったり、ついた力を確認することができる。(3年p. 6～7)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(国語)科 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学习についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
F	<p>○「読む」領域の教材では作品のジャンルを目次において明示し、わかりやすくするとともに、3年間で様々なジャンルの作品に触れられるよう工夫されている。(1年p.2～5)</p> <p>○また、説明、評論、論説が3年間で発展的に学習できるように工夫されている。(1年p.36、2年p.130、3年p.84)</p> <p>○「書く」「話す・聞く」の教材では、巻末の参考資料のページを記載し、資料を利用しながら学習を深めていけるよう工夫されている。(3年p.49)</p>	<p>○「話す・聞く」領域では、学年に応じて生徒が感心をもって取り組めるような活動を取り入れている。(1年p.25、2年p.42、3年p.181)</p> <p>○「読む」領域では「読み方を学ぼう」を置くことで各学習材を読む方法を示し、生徒の読みが深まるよう工夫されている。(1年p.32、p.64、p.88、p.131)</p> <p>○「書く」領域では書く対象や目的を明らかにし、それぞれのジャンルに合わせた書き方を学べるよう工夫されている。(1年p.44、91、166、184)</p>	<p>○「話す・聞く」領域では、学習の流れが明示されていたり、話し方や聞き方の具体例が挙げられていたりして、生徒が課題に取り組みやすくなるよう工夫されている。(1年p.68～73)</p> <p>○1年生で最初に触れる古典「竹取物語」の学習の前に解説を設け、現在との関連性を生徒に意識させるよう工夫されている。(1年p.100～102)</p> <p>○年表で古典作品が作られた時代を視覚的にわかりやすくしている。(1年p.113、2年p.104、117、3年p.114、122)</p>	<p>○学年毎に「文法のまとめ」を置き、これまでに学習した内容を振り返ることができるように工夫されている。(1年p.216～226、2年p.224～238、3年p.208～219)</p> <p>○巻末の「読書ガイド」の中に「小さな図書館」を置き、50冊近い本がテーマ別に見やすいレイアウトで紹介されている。(1年p.228～233)</p> <p>○「話す・聞く」「書く」領域では、ブレンディングなどのポイントが明示され、生徒が課題に取り組みやすくなるよう工夫されている。(2年p.43)</p>	<p>○巻末の参考資料に各学年で学ぶ漢字や、学習で使う用語を辞典形式で掲載することにより、基礎・基本の定着とともに自学自習に利用できるよう工夫されている。</p> <p>○各学習材に「学びを広げよう」を置き、一つまたは複数の課題を提示することで発展的学習に生かせるよう工夫されている。(2年p.29、p.85)</p> <p>○「漢文の読み方」「漢詩の形式」が学年ごとに説明してあり、生徒が自分で確認しやすいよう工夫されている。(1年p.120～121、2年p.126～127)</p>	<p>○巻頭に領域別教材一覧を掲載することで生徒が学習材でどのような力をつけるべきなのかわかりやすく表示されており、見通しが持てるよう工夫されている。(各学年p.6～11)</p> <p>○巻末の資料編に「学ぶ力を高めよう」として各学年の段階に応じた思考活動の方法や思考ツールの使い方を紹介している。(1年p.260、2年p.266、3年p.256)</p> <p>○巻末の参考資料に都道府県名の一覧や数字の書き表し方など、基礎知識が掲載されている。(1年p.266、291)</p>	<p>○国語科でつきたい力を確かめるために各領域でどのような言語活動を行うかを巻頭の領域別教材一覧で明確に提示している。(各学年p.6～11)</p> <p>○文章の読み方を学ぶということを意識しやすいよう工夫されているとともに、「学びの道しるべ」と「学びを広げよう」を活用することで各教材での目標を達成するよう工夫されている。(1年p.32～42)</p> <p>○「歌のことはば」では、現代の歌手の作品を詩の形にして読み深められるように紹介するなど、豊かな感性を育むよう工夫されている。(1年p.214、2年p.222、3年p.206)</p>
G	<p>○説明文や評論文、論説文等、説明的文章を各学年複数掲載し、比較しながら文章の特徴や内容を把握することができる。</p> <p>○各学年の冒頭の詩は著名な作家の作品を掲載し、内容は学年の発達段階に合ったものとなっている。(1年p.14、2年p.14、3年p.14)</p> <p>○巻末に「言葉の自習室」を設定し、発展学習が行われるような工夫がされている。</p>	<p>○学習材末に「みちしるべ」のページがあり、学習の前後や学習途中で活用しながら読解することができる。また、「学びのチャレンジ」と関連させることもできる。(1年p.203、334)</p> <p>○古典から現代までの著名な作家・作品や著名人の論説が選択されている。</p> <p>○小学校の既習事項を復習しながら学ぶ等中学校の学習にスムーズに入れるような配慮がみられる。(1年p.16)</p>	<p>○キャラクターを登場させ、本の中の人物と共に、学習材について考えるようなイメージをもたせている。(3年p.100～101)</p> <p>○提示されている課題がイメージしやすいように、また、自己表現の学習につなげやすいように写真と具体例を示し、練習ページを続けて設定する等工夫されている。(1年p.68～69)</p> <p>○挿絵や写真、図が見やすく掲載されているなど、興味をもって学習できるような配慮がみられる。</p>	<p>○巻末裏表紙に文学にゆかりのある風景写真を作品名、作家名とともに紹介するなど、読書に関心をもち、幅を広げる工夫がみられる。(1年p.310、巻末裏表紙)</p> <p>○「図書館で本を探そう」で、検索の手がかりを提示するなど、図書館を活用につなげるページがある。(2年p.328)</p> <p>○本や文章から情報収集する方法が紹介されている。1冊の本を例に具体的に方法を示す等、理解しやすいように工夫されている。(1年p.58～59)</p>	<p>○漢文の基礎の解説があり、確認しやすくなっている。(1年p.121～122)</p> <p>○「学びのチャレンジ」として本編教材をもとにした発展学習ができるよう工夫されている。(1年p.334)</p> <p>○各学年、漢字の読みをチェックしながら自学できるように工夫されている。(1年p.272)</p> <p>○文法の解説が具体的に「主語の探し方」等、記載されている手がかりをもとに、自学・自習を行うことができる。(1年p.227)</p>	<p>○巻末の「言葉の自習室」で「インターネット利用上の注意点」や「引用の仕方」等実践で役立つ知識が紹介されている。(2年p.336、3年p.332)</p> <p>○「アイデアの出し方」を各学年で少しずつ紹介している。(1年p.317、2年p.328、3年p.330)</p> <p>○教材で扱う内容一覧表の中に、各教材ごとの言語活動も示されており、一年間の見通しをもちながら言語活動を行うことができる。(1年p.8)</p>	<p>○目標がはっきり示してある。自学や発展学習が行える工夫が随所にみられる。</p> <p>○メディアリテラシー入門として比較する教材を取り入れている。表現力をつける学習材も取り入れられている。(1年p.62)</p> <p>○単元ごとに区切りのページに色をつける等ねらいやまとまりが意識できる工夫がされている。</p> <p>○写真や絵を多く掲載するなど感性を育む配慮がみられる。(1年p.32、132、314)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(国語)科 No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学习についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
J	<p>○1年生が入学して間もない頃に学習する「のはらうた」は、個性の異なる4編の詩を取り扱っており、生徒が多様な考え方や表現がしやすいように工夫されている。</p> <p>○各学年、文法がわかりやすくまとめられていて、生徒が復習しやすいよう工夫されている。また、活用表に書き込む形になって工夫されている。(1年p. 240～256、2年p. 238～256、3年p. 216～228)</p>	<p>○説明的な文章は、社会、文化、芸術、思想など、幅広い分野の評論や記録などになっている。</p> <p>○戦争に関する作品が各学年、夏休み前に学習できるように構成されている。「大人になれなかった弟たちに」(1年p. 106～115)、「字のない葉書」(2年p. 106～110)、「挨拶—原爆の写真によせて」(3年p. 102～105)</p>	<p>○「漢字の練習」では、生徒が興味を持って取り組みやすい出題形式になっていて工夫されている。(1年p. 257～260、2年p. 257～260)</p> <p>○「万葉・古今・新古今」では、古典に関心をもちやすくするように、和歌の現代語訳がある。そのため、生徒にわかりやすくなり、古典作品の世界を想像しやすくなるなど工夫されている。(3年p. 139～145)</p>	<p>○1年最初の単元は、「声を届ける【音読・発表】」「書き留める【学習の記録】」が早い段階であるので、国語の授業開きを意識した内容となっている。(1年p. 18～21)</p> <p>○島根県出身の森鷗外の「高瀬舟」があり、郷土の偉人について学習できる。(3年p. 80～93)</p>	<p>○学習材末にある「広がる読書」では、関連する本や教科書と同じ作者の本を紹介しているので、生徒が興味を持って読書に取り組みやすい。(1年p. 32、2年p. 27、3年p. 28)</p> <p>○「話す・聞く」「書く」では、学習の流れとポイントを図示し、これまでの学習を生かし、見通しをもって学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○「色いろの言葉」で日本独特の色を見本つきで紹介しており、日本人の繊細な色彩感覚に触れられるよう工夫されている。(各学年巻末裏表紙)</p> <p>○巻末の折り込みページに文学的及び説明的などの用語の説明があり、学習用語が活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年の発達段階に合った詩や物語などが選ばれている。</p> <p>○声を出したり、書いてまとめる学習の基本が早い段階で掲載されている。(1年p. 18～p. 21)</p> <p>○単元の最後に「広がる読書」という形で関連する本や作者の紹介をしているので、生徒が興味を持って読書しやすい。(1年p. 32、2年p. 27、3年p. 28)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(書写)科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<p>○目次にて、1年から3年の学習内容とねらいが一目でわかるように書かれており、意識して学習ができるようになっていいる。</p> <p>○毛筆の課題が見開き2ページにわたって、実物大で掲載してあり、お手本とする時に使いやすいように工夫されている。(1年 p. 32~33)</p>	<p>○「書くときのポイント」がページ端に帯で示し、確かめながら学習ができるように工夫されている。(p. 10、11)</p>	<p>○表紙裏に、「日本の用具の発達と文字の変化」をまとめた資料があり、どんな用具を用い、どんな文字を書いてきたのか、興味をもたせる資料がある。(p. 40~41)</p>	<p>○巻末に常用漢字表の行書体も合わせて表記されているので、県硬筆コンクール等で自分の名前を行書にくずす際の参考になる資料がある。</p>	<p>○唐の四大家と呼ばれる書き手の文字が紹介され、日本でも毛筆の基本とされた書が紹介されている。(p. 106~107)</p>	<p>○「生活に広げよう」のページなどで、学習した内容を日常生活に活かすことができるよう工夫がされている。(p. 26~27)</p>	<p>○ねらいを意識しながら、学習に取り組みやすい。</p> <p>○毛筆作品のお手本として、実物大にしたり、ポイントを示したり、使いやすいよう工夫がしてある。</p>
E	<p>○1年は毛筆教材が6点硬筆教材が4点、2年は毛筆教材が6点硬筆教材が4点、3年は毛筆教材が3点硬毛共通教材が1点である。楷書の題材が多い分、行書の題材が少ない。</p>	<p>○3年間を通して7章で構成されねらいを明確にするタイトルが付けられ、見通しを持った学習ができるように工夫されている。</p> <p>○「理解」「硬筆」「調和」「確かめ」といったステップで「書く」学習が進むよう構成されている。</p>	<p>○「書写の窓」のコラムでは学習の深化をねらったり、芸術科的な発展をねらったものが配置され関心を高めている。</p>	<p>○場面に応じて各学習では、素材を清掃活動や職場体験学習など学びと生活・社会との関わりについて具体的なイメージとして捉えやすい場面を使い、興味関心を高める工夫がされている。</p>	<p>○縮小した手本に赤字では、筆順や注意点を付記して確かめながら学習ができるよう配慮されている。</p>	<p>○篆刻を題材に書写の学習から芸術科の書道への発展的に捉える工夫がある。</p>	<p>○3年間を通して、社会生活場面で文字を整えて書く力を育成する構成である。(p. 71、p90)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(書写)科 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
F	<p>○目次にて、1年から3年の学習内容が書かれており、見通しをもって学習ができるようになっている。</p> <p>○教科書に、手本のすぐ下を書くスペースが取っており、鉛筆で書いて確認できるように工夫されている。(p.24~25)</p>	<p>○全学年で基礎的・基本的な学習の単元の後に、「生活に活かそう」の単元が配置され、身に付ける力をすぐに活用し、確実な定着を促す工夫がなされている。</p>	<p>○「書写の探検隊」というキャラクターが学習をナビゲートし、生徒が見通しを持って学習できるような配慮がされている。(p.1, 5)</p>	<p>○書初めの課題が折り込みページに掲載しており、各学年ごとの課題の参考になる。(p.85~88, 109~116)</p>	<p>○書の名手たちというページで、古典の書の紹介がされ、芸術書道への興味・関心を高めている。(p.68)</p>	<p>○J-POPの歌詞を書写した作品、筆記具の進化など現代社会における手書き文字の価値について視野を広げる工夫がされている。</p>	<p>○硬筆で書くスペースが確保してあるので、教科書と練習ノートとを兼ね備えている。</p> <p>○2年生の毛筆課題が比較的豊富である。</p>
G	<p>○表紙裏に、「目的に合わせて書こう」というページがあり、学習した内容を生活の中に生かしていくというねらいが伝わってくる。(p.1~2)</p>	<p>○国語の教科書で取り上げている古文の一節などを教材に多く取り上げている。(p.26)</p>	<p>○「文字は残る」「あの人が残した文字」の項では、著名人の実際の筆跡を紹介し、書字についての興味・関心を高めるような工夫がされている。</p>	<p>○小・中学校で学習する漢字の行書体が巻末に紹介されており、参考になる。(p.123~132)</p>	<p>○「書式の教室」として、手紙やはがきの書き方が紹介され、日常生活の中で生かされる書写の実例が紹介されている。(p.116~117)</p> <p>○日本の建築と「書」という発展的な内容のページがあり、日常生活の中の「書」を知ることができる(p.84)</p>	<p>○巻末の漢字一覧は部首ごとにまとめられており、字形を学ぶ際の参考となっている。</p>	<p>○「書写」の用具の作られるようすや、建築の中にみる書など、文化や伝統に関する知識も深めることができる。</p> <p>○書初めのお手本が充実している。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(書写)科 No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
J	<p>○1年は毛筆教材が6点硬筆教材が3点、2年は毛筆教材が4点硬筆教材が2点、思考・判断のための教材が1点、3年は硬毛共通教材が1点、思考・判断のための教材が2点ある。</p> <p>○1～3年の合冊にしているため、教材の数が限られる。</p>	<p>○練習や作品づくりの教材を少なくすることで、学校生活や日常生活で実際に活かす学習を重視している。</p> <p>○学習の流れが見開き2ページに、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」の三段階で示され、見通しを持って学習ができるように、重ねて学習事項の確認がくり返されるように配慮されている。</p>	<p>○導入段階に「書き込み」や「なぞろう」「〇を付けよう」などの活動を盛り込み、生徒が意識的に学習の視点をたどれるように工夫されている。(p.10、28)</p>	<p>○「季節のしおり」では、古謡や唱歌、短歌、俳句、古典、小説などから語句や文章を題材として書写し、言語文化を味わう工夫が成されている。(p.32 p.48)</p> <p>○資料編では、「書く」場面の実際、活用、発展が実用的な書式を交えて示してある。(p.59～118)</p>	<p>○「書写事典」として、常用漢字の楷書・行書、ひらがな・カタカナ、数字、アルファベット、部首の手本を掲載し、自主学習に活用できるような工夫がされている。</p>	<p>○「三年間のまとめ」では、テスト形式で既習事項の確認ができるように工夫されている。(p.54 55)</p>	<p>○資料を多くし、弾力的に扱えるようにして、必要に応じて基礎・基本の学習と関連させたり他教科等の学習に活用したりできるようにしている。(p.60～118)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会 地理的分野) 科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐむ要素を含む)
A	<p>○基礎的・基本的内容で構成され、小学校の学習内容とのつながりを示すなど生徒の発達段階に即した配慮がされている。</p> <p>○「地理スキル・アップ」で地理学習を進める上での基礎的・基本的な技能の身に付け方が、「えんぴつマーク」で学習を深めるための作業・活動が示されている。(p. 9, 11)</p>	<p>○世界や日本の諸地域では、各地域の「学習テーマ」や「追究テーマ」が設定されており、それぞれ異なる視点で地域の特徴をとらえる構成となっている。(p. 47, 183)</p> <p>○各時間ごとに学習課題と、その時間の学習内容を確認したり、深めたりする課題が「確認」として示されている。(p. 7)</p> <p>○「世界の諸地域」「日本の諸地域」ともに、それぞれ地域を見る視点に合わせた、まとめの手法が、様々に提示されている。(p. 58, 80, 189)</p>	<p>○「ためてみよう」で、導入で取り組む活動の例を示したり、学習に関連した話題をコラム「ティーブレイク」で紹介したりするなど、興味・関心を高める工夫がされている。(p. 7)</p> <p>○歴史・公民の学習と特に関連の強い内容には、「分野関連マーク」がつけられており、他分野とのつながりを意識して学習できるよう配慮されている。(p. 39, 139)</p>	<p>○竹島の写真や地図が掲載され、「日本固有の領土」「韓国が不法に占拠」と記述されている。また、「地理にアクセス」において、竹島とその周辺の地勢も写真つきで掲載されている。(p. 133, 134)</p> <p>○日本のエネルギーで、出雲市の風力発電の写真、中国・四国地方では、都市と農村の変化をテーマとし、市町村合併で雲南市、交通の発展で浜田駅と広島駅を結ぶ高速バスの内容が扱われている (p. 163, 199, 200)</p>	<p>○「地理にアクセス」では、学習内容を詳しく説明したり、その内容と関連する事例を紹介したりしている。(p. 11)</p> <p>○単元末の「深めよう」では、学習内容をさらに追究する視点が示されている。(p. 41)</p> <p>○「調査の達人」で、調査学習を進めるうえでの技能の身に付け方が示されている (p. 116~125)</p>	<p>○世界各地の人々の生活と環境では、寒帯と冷帯が別々に扱われ、それぞれの気候帯ごとに人々の暮らしの様子が示されている。(p. 21~27)</p> <p>○第一章「世界の姿」では、世界地図における大陸を、地域ごとに決まった色で塗りわけしており、地図の形式が変わっても、各大陸の位置が分かるように工夫されている。(p. 9)</p>	<p>○基礎的・基本的内容で構成され、小学校の学習内容とのつながりを示すなど生徒の発達段階に即した配慮がされている。(p. 5)</p> <p>○世界や日本の諸地域では、まず地域全体を概観した後、個々の地域の特徴や課題を学習するという一貫したながれになっている。(p. 46~47)</p> <p>○学習課題の問いが「どのように」「なぜ」という追究型の問いに統一されている。</p>
G	<p>○地図、グラフの使い方・見方が身につくように、「地理にアプローチ」が設定されている。</p> <p>○1時間の内容を見開き1ページにまとめてあり、授業展開や学習内容の見通しがたてやすいようにされている。</p> <p>○冒頭の「地理にアプローチ」においては、小学校で習得したグラフや地図の読み取りに関する内容が取り扱われており、小学校時代との接続を意識した内容となっている。(p. 6~10)</p>	<p>○見開きの内容に一つずつ、学習内容を探求し深めていくための問いが設定されている。</p> <p>○本文の中に、「第二次世界大戦後」、「明治時代初期」などといった、歴史的分野に関わる記述がしばしば見られる。(p. 176~177, 190)</p> <p>○朝鮮半島の北緯38度線や、チェチェン紛争に関わる内容について、「地理の窓」で写真つきでコラムを掲載するなど、民族紛争について積極的に取り上げられている。(p. 49, 79)</p>	<p>○「地理の窓」では、M社の開発したロボットについて掲載するなど、今日的な課題についてふれられている。(p. 193)</p> <p>○「世界の諸地域」「日本の諸地域」ともに、地域の特徴を明らかにするための視点が明確になっており、一貫したテーマで問題を深化していける構成になっている。</p>	<p>○「日本の領土をめぐる」で、竹島について写真と地図が掲載されており、「日本固有の領土」韓国が「現在まで不法に占拠し」と記述されている。(p. 131)</p> <p>○中国・四国地方では、「人口や都市・村落を中心に考えよう」とテーマを設定し、「見てみよう」で、島根県大田市について、石見銀山の写真、大田市の人口ピラミッド、人口の変化に関する統計資料が取り上げられている。(p. 178)</p> <p>○石見空港の利用について、教科書本文に掲載されている。(p. 183)</p>	<p>○発展的課題として、「なぜ、日本では地震が多く起きるのか」という課題を設定し、プレートテクトニクス理論をふまえて、詳細に解説されている。(p. 139)</p> <p>○見開きの内容ごとに「ふりかえる」という内容が設定されており、学習内容を復習できるようになっている。</p>	<p>○巻頭でユニバーサルデザインについて取り上げられており、実際に点字に触ることができたり、触る地球儀についての写真資料が掲載されている。(巻頭p. 5)</p>	<p>○「地域に学ぶ」という一貫したテーマで記述されており、「日本の諸地域」について、九州の農業では「畜産業」、中国・四国地方では「人口」と「交通網」に関することに焦点化するなど、地域の特徴的事例を強調した内容記述になっている。(p. 168~169, 174~185)</p> <p>○学習課題の問いが「どのように」「なぜ」という追究型の問いに統一されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会 地理的分野) 科 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐむ要素を含む)
K	<p>○基礎的・基本的内容が重視され、分かりにくい用語の「解説」を各ページに設け、生徒の発達段階に即した配慮がされている。(p. iii)</p> <p>○「技能をみがく(25点)」で地理学習を進める上での基礎的・基本的な技能の身に付け方や学習を深めるための作業・活動が示されている。</p>	<p>○世界や日本の諸地域では、各地域の「追究テーマ」が設定されており、それぞれ異なる視点で地域の特色をとらえたり、複数の視点を関連させながら地域の特色をとらえたりする構成となっている。(p. 33, 167)</p> <p>○各時間ごとの学習課題に対して、その時間の学習内容の確認をする「確認しよう」や、知識を整理する言語活動を促す「説明しよう」が設けられている。(p. 3)</p> <p>○写真資料の量が充実している。一枚一枚のサイズも大きめとなっており、資料の読み取りがしやすい。(p. 18~19, 34~35)</p>	<p>○学習内容に関連して、未来の社会をつくるために参考になる取り組みをコラム「羅針盤マーク」で紹介している。(p. 57, 69)</p> <p>○「小笠原西ノ島」「シェールガス」「メタンハイドレート」など最新の話題を取り上げ、興味・関心を高める工夫がされている。(p. 125, 155)</p> <p>○各地域の文化や産業についての歴史的背景を記載したり、社会が直面する課題を取り上げたり、他分野とのつながりを意識した学習ができるよう配慮されている。(p. 57, 176)</p>	<p>○竹島の写真や地図が掲載され、「日本固有の領土」「韓国が一方的に(中略)不法に占拠」と記述されている。また、コラムで、竹島でかつて盛んだった漁業の様子についても、写真つきで掲載されている。(p. 127)</p> <p>○中国・四国地方では、他地域との結びつきをテーマとし、浜田自動車道の整備や石見銀山の世界遺産登録が、島根県の観光客数とどう関連しているかを、統計資料と併せて掲載している。(p. 192~193)</p>	<p>○日本の諸地域では、特設ページ「地域を探ろう」で、多面的・多角的に考察できるような視点が示されている。(p. 180, 194)</p> <p>○世界、日本の諸地域では、各節末の「学習をふりかえろう」で、表や流れ図を用いたまとめ方について掲載されている。(p. 49, 195)</p> <p>○「発展」では、学習内容に関連する事柄が、詳しく紹介されている。(p. 133)</p>	<p>○世界と比べた日本の地域的特色の日本の気候では、島根県の大部分は太平洋側の気候に分類されている。(p. 143)</p> <p>○出雲大社、石見神楽の写真や、石見神楽を伝承する人の話が紹介されている。(p. 192)</p>	<p>○基礎的・基本的内容を重視しつつ、「どのようにして」「なぜ」という追究型の問いに統一されている。</p> <p>○世界や日本の諸地域では、まず写真により地域全体を概観し、自然環境について学習した後、個々の地域の特色や課題を学習するという一貫したながれになっている。(p. 34~37)</p>
O	<p>○基礎的・基本的内容で構成され、各單元ごとに「キーワード」が明示され、習得してほしい知識が明示されている。(p. 2)</p> <p>○地図、グラフの使い方・見方が身につくように、「スキルUP」のコーナーで段階的に課題が提示してある。(p. 4, 9)</p> <p>○1時間の内容を見開き1ページにまとめてあり、授業展開や学習内容の見通しがたてやすいようにされている。</p>	<p>○見開きの内容の一つずつ、学習内容を探求し深めていくための学習課題が設定されている。</p> <p>○「世界の諸地域」「日本の諸地域」ともに、最初の2時間で地域の概要を確認し、3時間目から、各地域に合わせた視点で探求していくといった内容構成になっており、知識習得と探求の場面が明確に区別されている。(p. 32~45)</p>	<p>○「地理+α」のコーナーによって、今日的な課題についてふれられている。</p> <p>○「連携コーナー」において、小学校時代の学習内容や歴史・公民的分野との関連を意識させるような工夫がなされている。(p. 2, 50, 60)</p>	<p>○「日本の領域をめぐる問題をつかむ」で、竹島について、「日本固有の領土」を韓国が「不法に占拠」と記述され、島の写真と松江の資料館の写真も合わせて掲載されている。(p. 118~119)</p> <p>○中国・四国地方は「人口や都市・村落の視点」から記述されており、本文記述の中で、雲南市吉田地区の生卵専用しょう油が取り扱われている。(p. 189)</p>	<p>○発展的課題として、「地震・津波が起きるしくみ」について、プレートテクトニクス理論をふまえて解説されている。(p. 141)</p> <p>○見開きの内容ごとに「学習の確認と活用」という内容が設定されており、学習内容をふりかえられるようになっていく。</p> <p>○「世界の諸地域」では、各単元の章末に、「自由研究」のコーナーが設定されており、単元の内容をさらに深化できるよう工夫されている。(p. 44, 56)</p>	<p>○「世界の諸地域」・「日本の諸地域」の内容では、章末ごとに学習内容をふりかえるためのまとめが設定されている。</p> <p>○教科書の左側にインデックスがついており、全体の内容の内、今の学習内容がどこに当たるかが分かるようにされている。(p. 2)</p>	<p>○基礎的・基本的な内容が重視されており、時間ごとに習得してほしい知識・技能が明確に提示されている。</p> <p>○内容について、概要を知識として習得する時間から、探求していく時間につながるということが意識された構成になっている。</p> <p>○学習課題の問いが「どのように」「なぜ」という追究型の問いに統一されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会科 歴史的分野) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<p>○図版は大きく見やすくなっている。</p> <p>○見開き2ページを1単位時間とし標準授業時数130時間に対して5時間の予備時間を設定しており余裕をもって指導計画を立てることができる。</p> <p>○文章表現は、敬体を用い丁寧でわかりやすい表現となっている。</p>	<p>○章の終わりの、「この時代の歴史の流れを確認しよう」から次章のはじめへ年表をつなげることで、時代のつながりを実感するとともに学習のつながりがつかみやすい構成となっている。</p> <p>○深めよう「解放令から水平社へ」では2ページを割いて解放令が出された後の人々の暮らしについてまとめている。</p> <p>(p. 190~191)</p> <p>○私たち歴史探検隊では、同じ中学生が身近な地域の歴史を調査するという構成で地理の身近な地域の調査とも関連する内容構成となっている。</p>	<p>○第1章歴史のとらえ方や各章のはじめには、小学校で学習した歴史上の人物をキャラクター化して表し、小学校の教科書で使用したものと同じ資料を用い、小学校の歴史学習を想起しながら中学校の歴史学習へ興味、関心を持ち、スムーズに移行できるようになっている。</p> <p>○見開き1時間の中で大きく目を引く資料と、キャラクターの問いが興味・関心を引き付ける。</p>	<p>○領土をめぐる問題については、日本の領土になって以降の「歴史的な経過」を取り上げ、また歴史にアクセスで2ページにわたり領土問題を取り上げている。正しく理解し解決に向けての意識が高められるよう工夫されている。(p. 252~253)</p> <p>○石見銀山についても地図の資料などを用い、4行にわたって記述がある。(p. 85)</p> <p>○深めよう 現代に受け継がれる神話の中に島根県と神話神楽や出雲大社が紹介されている。(p. 59)</p>	<p>○「深めよう」「アクセス」では今日的な課題を取り上げ、マークをつけて3分野の関連があることを示し多角的、発展的な学習を行うことができるようにしている。</p> <p>○机のマークで示される見開き2ページの右下の「確認」は授業の終わりのまとめや家庭学習の課題としても活用することができ、自主的な学習にも活用できる。</p>	<p>○デジタルマークを設けコンピュータやインターネットを活用して効果的な学習ができる資料がわかるようになっている。(p. 40, 153)</p>	<p>○各章末では、年表や模式図を使い、その時代の学習内容を整理しまとめやすくなっている。また、年表をつなげることで時代のつながりを意識し、興味・関心を持って次の学習に取り組みやすくなる構成になっている。</p> <p>○今日的な課題を3分野共通の課題として取り上げ、マークをつけてわかりやすく3分野の関連を図った学習活動ができるようになっている。</p>
G	<p>○歴史的分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項が明確におさえられている。社会の変化や今日的課題が反映された事象を積極的に取り上げることで、生徒の「未来を切り拓く力」を育むよう配慮されている。(p. 256~259, 262~263)</p> <p>○記述内容が正確・中立であり、中学生の思考や論理展開に整合しており明快である。学習の導入から課題の設定と追究、まとめに至る構成と記述が一貫しており、学習事項の定着を図ることができる。</p>	<p>○近現代史に重点を置くなど各単元の扱いに軽重をつけ、生徒がじっくり追及しながら学習展開できるように配慮されている。</p> <p>○本編では、授業の展開や学習の見通しがつきやすいように「1時間が見開き2ページ」で構成され、本編ページの各資料には、通し番号を付け、本文中にも資料との関連が分かるように資料番号が挿入されている。</p>	<p>○生徒の日常生活や経験と関連の深い、身近な話題や内容が多く取り上げられ、巻頭ページや巻末の折り込みページを中心に、興味・関心を喚起する写真資料が豊富に盛り込まれ、学ぶ楽しさや意欲が高まるよう配慮されている。</p> <p>○巻頭には、歴史の学習を始めるにあたって、その意義や学び方について紹介するページが設けられている。(巻頭1~4, p. 6~7)</p>	<p>○日本の領土をめぐる現況や問題が、学習内容に応じた確に取上げられている。特に北方領土の歴史的経緯が詳しく記述され、竹島・尖閣諸島の領有を巡る昨今の動きについても記載されている。(p. 165, 244~245, 257)</p> <p>○身近な地域の歴史を調べる学習が時代ごとに設定され、郷土の伝統と文化への関心を高める手掛かりが「地域調査の手引き」のコーナーで示されている。</p>	<p>○本編ページの中に「読み解こう」のコーナーが設けられ、地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取って考察する学習活動が重視されている。(p. 84~87, 135)</p> <p>○郷土・資料・人物・地域・世界のテーマから歴史を掘り下げる特設ページ「○○の○○から歴史を探ろう」が設けられ、興味・関心に応じて個々に探究する学習に取り組めるよう構成されている。(p. 46, 96)</p>	<p>○章末の「学習のまとめと表現」のページには、「読む/聞く」、「考える」、「書く/話す」という言語活動に取り組む際の視点や方法が、学習内容と関わらせて具体的に例示されている。</p> <p>○人権確立の歩みとともに女性やアイヌ民族・沖縄がおかれていた立場について理解を深めることができるよう留意されている。(p. 74~75, 81, 113, 151, 159, 163, 206~207等)</p>	<p>○地域の歴史的な歩みや人々の暮らしと密接に結び付いた伝統・文化の多様性やその継承という観点から、多文化共生への理解と、郷土や日本への愛着を深める学習活動が重視されている。</p> <p>○各時代の文化史の記述が充実してほか、代表的な文化遺産が豊富に掲載され、特に国宝・重要文化財・世界遺産にはマークを付けて紹介することにより、その意義や継承について理解を深められるよう留意されている。(p. 4, 44~45, 80~81, 118~119, 188~189)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会科 歴史的分野) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
I	<p>○B5版だが、すっきりとして図版も見やすい構成になっている。</p> <p>○見開き2ページを1時間として構成され全108時間となっており、130時間には余裕のある構成となっている。</p> <p>○前近代と近・現代の分量のバランスが適切である。</p>	<p>○「地図で見る世界史」は世界とのつながりが意識できる構成となっている。</p> <p>○各章末の「まとめてみよう」は年表、資料などにより基本的な内容を振り返るとともに指定された語句を用い時代の特徴をまとめる構成になっている。</p> <p>○世界史については適切な個所に配置され、世界史のつながりが重視されている。</p>	<p>○歴史学習の導入では、小学校で学習した内容をもとにYチャートを用いキャッチコピーをつくる活動を行うことで、興味・関心を持って中学校での学習にスムーズに移行できるよう工夫されている。</p>	<p>○竹島については、「領土の画定と北海道・沖縄」において注釈に記述されている。(p.178)</p> <p>○「神話と伝承」において国引きの神話が取り上げられている。(p.44)</p>	<p>○1時間ごとの「まとめてみよう」では、学習内容が定着しているのかを自主学習などで確認するための手立てともなる。</p> <p>また、深めようという課題では発展的な学習につなげていくことができるように工夫されている。</p>	<p>○時代ごとに色を変えることで、それぞれの時代に一体感を持たせる工夫がされている。</p> <p>○各章の扉絵に、その時代の代表的な人物や資料とともに、吹き出しで問いが示されどんな時代なのかを考えながら学習に入っていけるよう工夫されている。</p>	<p>○本文が中央部に集まっており、端に資料を配した構成ですっきりと見やすい。</p> <p>○文章は平易で読みやすい。学習課題やまとめてみようが大きく書かれていて分かりやすくなっている。</p> <p>○発展的な内容を扱うコラムも精選されている。</p>
K	<p>○記述は具体的に例示したり、歴史的事象の背景や因果関係まで分かるようにするなど、丁寧で分かり易い本文になっている。</p> <p>また、平易な表現にするなど、中学生の発達段階が考慮されている。</p> <p>○本文等、難しい漢字にはふり仮名が付されている。</p> <p>また、固有名詞や歴史用語には適宜ふり仮名が付されており、用語や熟語が正しく読めるよう配慮されている。</p>	<p>○本文は政治史のみならず経済史や社会史の側面からも捉える視点を重視した記述となっている。</p> <p>○古代の日本の国家形成は、東アジア諸国の動向と深く関係しながら展開したことなど東アジアと日本の動きを意識した本文記述がなされている。</p> <p>○近現代の世界史見開きを増やしており、世界と日本とのつながりが、より分かり易くなるよう整理・工夫されている。</p> <p>また、世界の古代文明や宗教、近世ヨーロッパとの結びつきの記述が充実され、日本への影響が分かるよう工夫されている。</p>	<p>○誌面を幅広のAB判にすることで、写真や地図や年表などが大きく見やすく提示され、歴史への興味・関心が喚起されるよう工夫されている。</p> <p>○見開き1時間の誌面が、「興味・関心を引く導入」「学習のめあてを見通せる学習課題」「丁寧で分かり易い本文」「学習事項を振り返る確認しよう・説明しよう」の流れで構造化され、基礎的・基本的な知識や技能、概念が確実に習得できるよう配慮されている。</p>	<p>○コラム「地域史」が22か所設けられ、地域から歴史を捉える視点が意識できるよう工夫されている。</p> <p>○特設「歴史を探ろう」において、日本の領土画定と領有をめぐる諸課題について歴史的経緯が分かるようにまとめられている。(p.246~247)</p> <p>○自然環境・人権・交流・平和といった現代及び将来の社会が直面する課題の歴史的経緯を取り上げた「羅針盤」マークのコラムが34か所設けられ、過去の人々がそれらにどのように取り組んできたか紹介されている。</p>	<p>○「技能をみがく」コーナーが11か所設けられ、資料の具体的な見方や考へ方、表現方法など歴史学習の基礎的・基本的な技能が習得できるよう配慮されている。</p> <p>○「この教科書の学習の仕方」「タイムトラベルの活用の仕方」が掲載され、自学自習がし易くなっている。(巻頭2、p.iii)</p>	<p>○文化史は、文化財などの大きな写真を掲載したり、社会的背景や文化財について丁寧に記述した学習の工夫を行い、2見開き1テーマに設定されている。</p> <p>○人権に関する諸課題の経緯について紹介した人権のコラムに「羅針盤マーク」が設けられている。(p.75、199等)</p> <p>○見開きのデザインやグラフ、地図などの資料は色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色や模様が使われている。</p>	<p>○本文のページの見開きの右下には、「確認しよう」と「説明しよう」が設けられ、「確認しよう」では本時の学習での習得事項の確認が、「説明しよう」では本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設定され、言語活動を毎時間繰り返し行えるよう工夫されている。</p> <p>○学習内容と関連する歴史的事象を題材にして、歴史的思考方法を養い、協働的な学びが実践できる「トリアル歴史」が2か所設けられている。(p.106、154)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会科 歴史的分野) No. (3)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
○	<p>○AB版で資料が大きく、見やすくなっており本文と対応した資料に同じ番号がふられ関連付けて資料を見ることができる。 ○108時間の構成となっており、歴史学習130時間の中で余裕をもって地域の歴史を調べる調べ学習や歴史を掘り下げる、先人に学ぶといった発展的な内容にも取り組むことができる構成となっている。</p>	<p>○地理や公民との内容の関連性に考慮し、地図を多用したり、現代社会の課題を歴史的な背景と関連付け公民につなぐ工夫がなされている。 ○とらえよう時代の転換間ではステップ1、2、3で読み取り、伝える学習活動を通して時代の大きな変わり目をとらえることができる構成となっている。</p>	<p>○見開き2ページの学習課題を明確に示し、毎時間の学習への意欲付けを図ることができる。 ○地図で見る世界の動きでは、それぞれの時代ごとの世界とのつながりを意識できる構成になっており、これからの学習内容に興味・関心をもって取り組むことができる。</p>	<p>○領土をめぐる問題については領土の確定と隣接地域で扱う地図の中に竹島が取り上げられており、島根県に編入の記述がある。また、現代詩プラスアルファで記述されている。(p.265) ○近世史プラスアルファで石見銀山について記述されている。(p.111)</p>	<p>○見開き2ページごとの「学習の確認と活用」で学習を振り返り、自主学習の課題や発展的学習へも取り組めるようになっており。 ○各章のまとめは年表や地図といった基本的なまとめと課題を設け、グループで話し合いまとめることができる構成になっている。</p>	<p>○最後に歴史学習の基礎資料として、文化財の見方や資料の読み方が示してある。また、土地制度の移り変わりは、わかりやすくまとめられており活用できる。</p>	<p>○章末の学習の活用では基礎的、基本的な事項を振り返るとともに、時代の特色に迫るための多面的、多角的な資料や手法を用い、考えまとめ発表することができる工夫がされている。</p>
◎	<p>○古代に多くのページを割いて丁寧に説明し、日本の古代について興味・関心がもてるよう工夫されている。(p.44~47) ○古代や近代以降の記述では、人物名・事件名などの歴史用語を多く用いて、詳しく述べられている。資料は分かり易く、現代語で書かれている。(p.41)</p>	<p>○日本の文化や伝統について多くのコラムが掲載されており、日本の文化や伝統を深く掘り下げて学習できるよう工夫されている。(p.28~29等) ○「歴史豆辞典」では各章のまとめとして、その章で学んだ歴史用語を100字で解説しており、学習内容についてポイントを押さえて確認できるよう配慮されている。(p.80、108、152、210、250、278)</p>	<p>○学習の導入では「日本歴史の舞台」として、我が国を「森の国」「水田の国」「町工場の国」の3点で整理するとともに、歴史学習の意義について自分のこととして考えるよう設定されている。(p.2~3) ○「年号→西暦早見表」のページが設けられており、年号への興味・関心がもてるよう工夫されている。(裏表紙裏)</p>	<p>○「21世紀の日本の進路」において「竹島は日本固有の領土」であり、韓国が「不当な占拠をつづけている」と記述され、側注に編入の経緯が示されている。(p.272~273) ○コラム「もっと知りたい」において、神話について学習を深める「国譲り、年号への興味・関心」がテーマで、出雲大社について詳しく説明されている。(p.46~47)</p>	<p>○導入に歴史の捉え方を学ぶ章が設けてあり、時代の表し方、人物を通しての歴史の見方など、自ら学ぶための手だてが紹介されている。(p.7~24) ○見開き2ページごとに「まとめにチャレンジ」という課題が設けられており、学習した内容についてキーワードを使ってまとめる課題が設定されている。</p>	<p>○神話と大和朝廷の始まりを関連付けて記述している他、コラムにも神話を取り上げている。(p.44~47) ○「外の目から見た日本」というコラムで、日本人の良さについて気付くよう工夫されている。(p.180~181、276) ○各単元の欄外に掲載された「歴史の言葉」は、歴史用語を解説したユニークなものである。</p>	<p>○古代と近現代に重点が置かれており、日本古来の文化の独自性と、近代以降、激動する国際社会の中で、日本の独立が維持されたことについて、考えを深められるよう工夫されている。 ○「もっと知りたい」「人物クローズアップ」「外の目から見た日本」「歴史の言葉」などのコラムが掲載され、本文では簡潔に記述されている内容を、より詳しく面白く発展させた読み物が、生徒の興味・関心を引き出せるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会科 歴史的分野) No. (4)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐむ要素を含む)
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	
R	<p>○AB版で図版が大きく見やすくなっている。</p> <p>○学習のまとめが2ページとなっており年表や図の読み取り, 地理と関連させ歴史上の位置を確認する, 時代の特徴をまとめるなど前回と比べ充実した構成になっている。</p>	<p>○「このころ世界は」というコラムを設け, 日本との関連も意識した世界史の記述も盛り込まれている。</p> <p>○人物クローズアップ, なでしこ日本史といったコラムでたくさん的人物をとりあげる構成となっている。</p>	<p>○章のはじめに鳥の目でその時代の主な人物や出来事をイラストでつかみ, 虫の目ではその時代の特色を読み取る資料を大きく用いて興味関心を持って学習に入れる工夫がされている。</p>	<p>○領土をめぐる問題については, 「明治初期の外交と国境の画定」のコラム, 歴史ビューで竹島について触れられている。さらに「日本の現状とこれから」では本文中に記述がある。(p. 173, 273)</p> <p>○「応仁の乱と戦国大名」のコラム, 歴史ビューで世界文化遺産・石見銀山として写真資料とともに紹介されている。(p. 87)</p> <p>○「西洋文化と明治の文化」の明治時代の医学者, 科学者の表の中に秦佐八郎が載っている。(p. 199)</p>	<p>○学習課題と関連する学習のまとめを活用し, 学習課題が理解できているか, 自主学習などを通して確認することができる内容となっている。</p>	<p>○章のはじめのページに歴史ものさしが示してありこれから学習する時代の位置づけを視覚的にとらえることができる。</p> <p>○章の最後の歴史学習のまとめで「日本の歴史10大事件を選ぶ」「日本の人物ベスト10」などが取り入れられ, 既習事項を想起し歴史を大きくとえらえることができる。</p>	<p>○歴史上の人物が多く取りあげられ, その人物の業績などから時代の特徴などを読み取ったり考えたりすることができる。</p> <p>○古代の学習内容が充実しており, 特に縄文時代は6ページにわたって本文の記述がある。日本古来のものの見方, 考え方について詳しく知ることができる。</p>
S	<p>○教科書を無理なく読み通し, 読み解くことを通じて言語活動の裾野を広げ, 生徒自らが歴史的対象について, 自分の言葉で表現する意欲を喚起するよう工夫している。</p> <p>○言語表現を培う体験の充実を図るため, 特設ページ「歴史を体験する」を配している。(p. 30, 112, 140, 168, 220, 290)</p> <p>○判型をA4判とし, 豊富な資料と記述を盛り込んでいる。</p>	<p>○世界の歴史の扱いを充実させ, 第4章は「世界がつながる時代」として東アジア・大西洋・インド洋の交易・交流を具体的に取り上げている。</p> <p>○各章の扉ページでは, 世界を俯瞰できる地図の上に, その時代ごとに設定したテーマに基づいて, 世界の状況をビジュアルで示している。(p. 10~11, 32~33, 56~57, 88~89, 114~115, 145~146, 170~171, 192~193, 222~223, 256~257)</p> <p>○年表ページでも日本と同時代の世界の事項を丁寧に取り上げている。(p. 294~313)</p>	<p>○各テーマを「学習内容の構造化と焦点化」を重視して設定し, 歴史の具体的場面や時代を生きた人々の姿を通して各時代の特色を理解できるように留意してある。</p> <p>○生徒自身が歴史の大きな流れを捉え, 歴史像をイメージできるように各章の関連が図られている。</p> <p>○歴史事象を多角的・多面的に理解を深めるため, 索引ページを充実させている。(p. 314~323)</p>	<p>○伝統や文化では, 文化遺産の名前と作者の名前だけに止まらず, 文化を生み出した人々の願いと社会の状況を, 具体的に描き出している。</p> <p>○近現代の学習を重視し「世界は近代へ」「近代国家へと歩む日本」「帝国主義の時代」「第二次世界大戦時代」「現代の日本と世界」の5つ, 64テーマを設定してある。(p. 144~255)</p>	<p>○各テーマの導入には, 歴史の現場となった各地の様子や出来事を具体的に記述し, 地域の視点から歴史を考えられるよう工夫してある。</p> <p>○歴史への案内に「地域の博物館で調べる」を設けて, 身近な地域の学習が行えるよう配慮されている。(p. 140~141)</p> <p>○裏見返しの「歴史地図」では, 千島列島から南西諸島・小笠原諸島に至る全域を1枚に収め, 人々の生活の舞台である日本全体で捉えるようにしてある。(巻末)</p>	<p>○歴史上の人物については, 指導的な立場の人物のみならず, 様々な分野・階層の男女の生活や社会的な業績を具体的に記述してある。(教科書全般)</p> <p>○各時代で子どもや青年の生き方や労働・学習について取り上げ, 生徒の関心や共感を呼び起こせるよう配慮されている。(教科書全般)</p>	<p>○全体を歴史への案内, 第1部原始・古代, 第2部中世, 第3部近世, 第4部近代, 第5部二つの世界大戦, 第6部現代として, 世界の歴史を背景に日本の歴史の流れを大きく掴み, 理解できるように配慮されている。</p> <p>○各部の冒頭に学習課題を設定し, 生徒が課題をもって学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 11, 57, 89, 145, 193, 257,)</p> <p>○各部に設定した学習のまとめでは, 時代を特色や転換を大観し, 言語表現活動ができるよう配慮されている。(p. 54~55, 86~87, 142~143, 190~191, 254~255, 292~293)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会 公民的分野) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<p>○1課題をAB版の見開きページで扱い、豊富な図版・写真等の資料から社会的事象が考察できるよう工夫されている。</p> <p>○基本的用語を丁寧に取り上げて記述するとともに、図版・写真の中には補足や説明が加えられたものがあり、資料の理解がしやすくなるよう工夫されている。</p>	<p>○各章の冒頭には小学校で学習した事項を示すとともに、マークを用いて地理的・歴史的分野との関連を表し、既習事項が想起できるよう工夫されている。</p> <p>○1単位時間ごとに学習課題や学習の手がかりを示すとともに、見開きの最後や章末には学習のまとめとして言語活動を取り入れた課題を設けている。</p>	<p>○各章の先頭に、印象的な写真を大きく掲載するとともに、ケース検討やグループでの話し合いを促す課題を設定し、学習のテーマが身近に感じられるよう工夫されている。</p> <p>○豊富なイラストや色彩を用いるとともに、インタビュコラムや「公民にアクセス」では実際的な話題を提供し、学習内容の理解や関心が深まるよう工夫されている。</p>	<p>○竹島問題については「日本の固有の領土」「韓国によって不法に占拠されており」と本文に記述され、特設ページにおいては今日の状況に至るまでの経緯が記述されている。</p> <p>○石見銀山遺跡については、世界遺産登録の背景として地域住民の保存活動があったこと、現在は市内の小・中学校が世界遺産学習に取り組んでいることが紹介されている。</p>	<p>○「公民にチャレンジ」や各章に「深めよう」のページを設け、有効な作業や活動を提示することによって、グループ学習や発展的な学習を促すよう工夫されている。</p> <p>○終章では、レポート作成のための課題設定や調査方法、まとめ方については、具体例を示して記述されている。</p>	<p>○「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方、「インターネットの活用」により、デジタルコンテンツの利用が可能なる部分をマークで示している。</p> <p>○参考法令が豊富であり、日本国憲法については丁寧に用語の解説がおこなわれている。</p>	<p>○基礎的・基本的内容を重視し、個人やグループによって行う活動を通して思考・判断・表現の力をつけることができるよう工夫されており、平易な記述で課題の追求や社会への参画を意識させている。</p>
G	<p>○東日本大震災を通して「これから」を考えると、根源的な問いを示して、特徴的である。(p.12~13)</p> <p>○経済学習の章立てを2つに分け、特に第5章においては、日本経済の課題についても深く考えられるような内容になっている。</p>	<p>○巻頭において、「公民の学習を始めるにあたって」と題して、2ページを配当している。ここでは、「豊かさとは何か」とか、「幸せとは何か」といった、公民の学習を進める上での根源的な問いが提示されている。また、学習内容やノートづくりなどが明確に提示されていることも、特徴的である。(巻頭p.3~4)</p> <p>○本文中に資料番号が示され、関連する資料とリンクさせながら学習できるように工夫されている。</p>	<p>○実際に点字が示され、視覚障がいのある人の社会生活について、追体験できるように工夫されている。(巻頭p.5)</p> <p>○社会権の学習の中で、プロ野球選手会によるストライキについての記載があり、学習への興味や関心を高める工夫がなされている。(p.55)</p>	<p>○基本的人権についての学習の中で、「ともに生きる社会をみずく人たち」と題して、2ページを配当し、人権についてさらに深く考える構成になっている。このことは、「人権・同和教育を基底に据える」本県の教育のあり方とも合致している。(p.50~51)</p> <p>○コラムの中で、大田市の「中村ブレイス」が紹介され、働く意味について考えを深めるような学習が期待できる。(p.155)</p>	<p>○NIE(教育に新聞を)の視点から、新聞の特色や構成などが明確に示され、発展的な学習につながる工夫がなされている。(p.6~7)</p> <p>○情報リテラシーについて、2ページを配当し、「クリティカル・シンキング」の重要性についても示すなど、発展的な学習につながる工夫がなされている。(p.30~31)</p>	<p>○政治学習の中で、マスメディアや行政裁判などについて詳細に記載されていて、現代社会について理解を促すような内容に特徴がある。</p> <p>○経済学習の中で、需要曲線と供給曲線について詳細に記載されていて、より理解を促すような配当がなされている。(p.130~131)</p>	<p>○「豊かさとは何か」とか、「幸せとは何か」といった根源的な問いが教科書の中に貫かれ、生徒たちが発展的学習を通して、自分の考えを深められるように工夫されている。人権についても配慮され、本県の教育のあり方とも合致している。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会 公民的分野) No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐむ要素を含む)
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	
I	<p>○サイズが大判化する中で、B5版サイズの教科書であるが、資料などに読み取りにくいものは見られない。</p> <p>○福島第一原発事故についての記載が詳細で、持続可能な未来について考えさせるような根源的な問いを示している。(p. 23)</p>	<p>○巻頭において、「学習のはじめに」と題して、2ページを配当している。ここでは、「公民」について学習する目的等が示されている。(p. 2～3)</p> <p>○政治学習の最後に「平和主義」について学習する構成が特徴的である。(p. 92～98)</p>	<p>○レイチェル・カーソンやネルソン・マンデラなど、各章のはじめに象徴的な人物が掲載され、学習の動機づけが期待される。</p> <p>○第3編の「国際社会を生きる」に28ページを配当し、現代社会の課題について深く考えることができるよう工夫がなされている。</p>	<p>○現行の学習指導要領からはじまった「対立」と「合意」について、端的に記載されている。(p. 20～21)</p> <p>○労働条件など、労働に関する記載が充実していて、近年の労働環境について考えを深めることができるよう工夫がなされている。</p>	<p>○憲法改正など、「深める公民」の中でいくつかのテーマを提示し、発展的学習を促すような工夫がなされている。</p> <p>○経済学習の中でTPPについての記載があり、今日的な課題についても学習できるような構成になっている。(p. 130～131)</p>	<p>○アカウンタビリティ(説明責任)やレファレンダム(国民投票)など、近年耳にするようになった外来の語句が多く記載されている。(p. 61, 77)</p> <p>○政治学習の中で、マスメディアについて詳細に記載されていて、現代社会について理解を促すような内容に特徴がある。</p>	<p>○持続可能な未来について考えさせるような根源的な問いを示しているほか、「国際社会を生きる」に28ページを配当するなど、現代社会の課題について深く考えるような構成になっている。憲法改正など、発展的学習を促すような工夫もなされている。</p>
K	<p>○1 課題をA版の見開きページで扱い、図版・写真等を大きめに掲載することによって、詳しく読み取ることができるよう工夫されている。</p> <p>○基本的用語を精選して取り上げて記述するとともに、難しい用語や表現についてはイラストや側注を用いて理解がしやすくなるよう工夫されている。</p>	<p>○1単位時間ごとに学習課題や学習の手がかりを示すとともに、見開きの最後や章末には学習のまとめとして言語活動を取り入れた課題を設けている。</p> <p>○マークを用いて地理的・歴史的分野の既習用を示し、章末には第5部で行うレポート作成に向けてテーマ例を紹介するなど、分野別・章別の学習が関連づけられるよう配慮されている。</p>	<p>○各部の冒頭には印象的な写真を大きく掲載するとともに、イラストを用いた導入学習を見開きで扱い、楽しみながらめあてをもって学習に入れるよう工夫されている。</p> <p>○豊富なイラストや色彩を用いるとともに、「クローズアップ」では現代的な話題や身近な話題、「How to・・・」では実際の話題を提供し、学習内容の理解や関心が深まるよう工夫されている。</p>	<p>○竹島問題については「日本固有の領土」「不法に占拠」と本文に記述され、側注では領有の根拠について記述されている。</p> <p>○各部の学習を通して、具体的な事例を基に「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方を身につけることができるよう構成されている。</p>	<p>○「トライアル公民」では、意見を出し合ったり整理したりする活動を取りあげ、具体的な方法やヒントを示して発展的な学習を促すよう工夫されている。</p> <p>○第5部では、レポート作成の手順や留意点を整理して示し、レポート作成が進めやすくなるよう配慮されている。</p>	<p>○ほぼ一定の位置に本文や資料等を配置し、見やすい紙面になるよう配慮されている。</p> <p>○「未来に向けて」の特設ページを設けたり、参考になる取り組みを紹介したコラムを設けたりして、今後の社会において取り組むことが必要な課題を精選して提示している。</p>	<p>○基礎的・基本的内容を精選するとともに、最近の課題や身近な話題を取りあげ、主要なテーマである「持続可能な社会」「対立と合意」「効率と公正」に基づいて社会の変化に関心が高まるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会 公民的分野) No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
○	<p>○現代社会について詳細に記載し、30ページを配当しているのが特徴的である。(p. 1~30)</p> <p>○第5編では、レポート課題の設定やレポート作成の手引きが詳細に記載されるなど、工夫された記述になっているのが特徴的である。</p>	<p>○本文中に資料番号が示され、関連する資料とリンクさせながら学習できるように工夫されている。</p> <p>○政治学習では、国の政治よりも前に地方自治について記載されているのが特徴的である。(p. 86~95)</p>	<p>○実際に点字が示され、視覚障がいのある人の社会生活について、追体験できるように工夫されている。(p. 50)</p> <p>○各編の冒頭で「ナビ」のページを設定するなど、学習への動機づけが期待される。</p>	<p>○「受けつぎ、創造する日本の文化」の学習では、大田市の中学生在が石見神楽の練習に励む写真資料が掲載されている。(p. 36、39)</p> <p>○竹島問題について、「日本固有の領土」、「韓国が不法に占拠」などと記載されている。また、側注では「国際司法裁判所に訴えて平和的に解決すること」が記載されている。(p. 179)</p>	<p>○集団的自衛権やTPPなど、今日的な課題についても学習できるような構成になっている。</p> <p>(p. 70、139)</p> <p>○学習課題やキーワード、学習の確認と活用が明記され、予習や復習に取り組みやすいような工夫がなされている。</p>	<p>○NIE(教育に新聞を)の視点から、現代の政治のようすを読み取るような記載がある。(p. 33)</p> <p>○本文に関連して、中心となる視覚資料やコラムなどを豊富に配置している。</p>	<p>○現代社会について詳細に記載し、30ページを配当しているほか、最後の単元ではレポート課題の設定やレポート作成の手引きが詳細に記載されるなど、工夫された記述になっている。集団的自衛権やTPPなど、今日的な課題についても学習できるような構成になっている。</p>
◎	<p>○B5版で写真や資料が精選されており、本文の記述においても基本的用語を精選し、社会的事象がとらえやすい簡潔な記述になっている。</p> <p>○理解の難しい用語や文章については、側注解説や図・写真などを用いて理解が深まるよう配慮されている。</p>	<p>○1単位時間ごとに学習課題や学習の手がかりを示すとともに、章末には「学習のまとめと発展」で、主な学習事項を示す構成となっている。</p> <p>○政治や国際関係に関連する内容の資料が豊富で、国際社会における日本の役割について深く考えさせることができるように工夫されている。</p>	<p>○「もっと知りたい」や「ミニ知識」では、学習に関連する内容をさらに深めることで興味・関心を高めるよう工夫されている。</p> <p>○学習内容に関連した歴史上の人物や著名人の写真が説明の一部として取り上げられており、「ミニ知識」などには印象的な写真も掲載されている。</p>	<p>○「わが国の領土に関する問題」で北方領土や尖閣諸島とともに竹島を取りあげ、「韓国が占領中」として日韓双方の見解の違いを紹介している。</p> <p>○裏表紙裏の「わが国の領域に」においては地図中に竹島の写真を掲載し、「韓国によって不法占拠」と紹介している。</p>	<p>○章末の「学習のまとめと発展」では、考えを深めたりまとめたりする発見的な学習ができる課題が提示されている。</p> <p>○終章ではレポートと卒業論文の作成手順について簡潔に記載し、ディベートについてはその方、法や実践例について詳しく紹介している。</p>	<p>○コラムや本文に「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方によって問題を解決する必要があることを繰り返し記述している。</p> <p>○参考法令が豊富であり、特徴的な法令についてもその要点を示して、発展的な学習に対応できるように工夫されている。</p>	<p>○簡潔な記述で、整理された内容が記述されている。見解の一致をみていない問題や、賛成論と反対論があるような事実については両者を取りあげ、社会的思考が深まるように工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(社会 公民的分野) No. (4)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
R	<p>○「少子化の克服に一人ひとりの意識改革も必要である」と記述されるなど、特徴的な記載が多い。(p. 17, 18)</p> <p>○最終の「社会科のまとめ」では、「『持続可能な社会』を築いていくための国づくり構想」をテーマに、内閣総理大臣としての政策を作成する学習が設定されている。(p. 209~215)</p>	<p>○巻頭において、「なぜ『公民』を学ぶのか?」と題して、2ページを配当している。ここでは、「公民」について学習する目的等が示されている。(p. 2~3)</p> <p>○愛国心を含め、「国家と私たち」について、2ページを配当し、記載している。(p. 180~181)</p>	<p>○日本の伝統文化について、本文記載とは別にさらに2ページを配当し、写真資料で示している。</p> <p>○各編の冒頭で「入口」のページを設定するなど、学習への動機づけが期待される。</p>	<p>○憲法にのっとって国を運営していくという立憲主義の説明など、特徴的な記載が多い。(p. 47)</p> <p>○竹島問題について、「日本固有の領土」や「韓国が不法占拠」と記載されている。地図の解説や特設ページで、歴史的経緯や国際司法裁判所への付託などについて記載されている。島根県Web竹島問題研究所のアドレスも記載されている。(口絵11, p. 177~179)</p>	<p>○日本国憲法の制定過程が詳細に記載されていることに加え、憲法改正のしくみについても2ページを配当するなど、憲法改正について生徒たちに考えさせることができるような構成になっている。(p. 44, 60~61)</p> <p>○ONIE (教育に新聞を)の観点から、新聞の社説を比較しながらディベート例を提示するなど、発展的な学習につながる工夫がなされている。(p. 94~95)</p>	<p>○天皇制が現代の立憲君主制のモデルになっていることを記載している。(p. 51)</p> <p>○平和主義については、北朝鮮や中国との緊張関係について記載している。(p. 59)</p>	<p>○日本国憲法の制定過程が詳細に記載されていることに加え、憲法改正のしくみについても2ページを配当するなど、憲法改正について生徒たちに考えさせることができるような構成になっている。愛国心、日本の伝統文化、天皇制など、特徴的な記載も多い。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(地図) No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐむ要素を含む)
A	<p>○横長のAB版で、折込3ページの地図も2つあり、大きくて見やすい。(p. 1~3、119~121)</p> <p>○世界・日本のどの地域においても地図と「基本資料」「テーマ資料」のページがあり、十分なページ数がある。</p> <p>○人口や資源・エネルギーなど日本と世界を比較するページが多く、また索引で文字の間隔を広めに取って見やすくしている。(p. 137~155、166~178)</p>	<p>○地図帳の活用方法について、地図記号や索引の使い方、資料の見方が具体的に示されている。(p. 4~6)</p> <p>○教科書に応じて、地域ごとの主題・考察の仕方に沿った資料があり、学習を展開する段階で役立つようにになっている。(p. 26~28)</p> <p>○「世界の国の人口、文化、経済、日本との貿易」では、国家の体制等がわかるように、正式国名で標記されている。(p. 159~161)</p>	<p>○世界の食文化については、料理を拡大した写真を使うなど、随所に興味・関心を高める写真や絵が取り入れられている。(p. 16)</p> <p>○各地域の地図ページでは、「注目したい記号」が示され、地域の特色を捉えやすくしてある。(p. 55~56)</p>	<p>○日本の周辺の地図では、竹島を拡大した写真と共に、日本固有の島根県の領土であること、韓国が不法に占拠していることが説明されている。(p. 182)</p> <p>○島根県について、さまざまな特産品、石見銀山が世界遺産であること、隠岐がジオパークに登録されていること、高齢化が顕著であること、島根原発があること、かつて笹ヶ谷地区で公害があったことなどが示されている。(p. 83~85、87、89~90、136、141、155、180)</p>	<p>○資料中に「ジャンプ」マークが示され、関連する他のページがわかるようにしてある。(p. 7)</p> <p>○世界各国の人口や各地の平均気温など、調べ学習に役立つ統計資料が10ページにわたり掲載されている。(p. 156~165)</p>	<p>○落ち着いた色合いで、紙の反射が少ない。</p> <p>○「事項別さくいん」「資料さくいん」が設けられ、資料が探しやすいよう工夫されている。(p. 177~178)</p>	<p>○「注目したい記号」で視点を絞らせたり、「ジャンプ」マークで複数の資料を関連付けさせたりするなど、生徒の思考を深められる手立てが多く示されている。</p> <p>○特別支援教育の観点から、落ち着いた色合いで、紙の反射が少なく見やすい紙面になっている。</p>
K	<p>○横長のAB版で、折込3ページの地図も3つあり、大きくて見やすい。(p. 1~3、75~77、129~131)</p> <p>○世界・日本のどの地域においても地図と「資料図」があり、十分なページ数がある。</p> <p>○他の地域と比較して、アジアにより多くのページを割り当てている。(p. 19~41)</p>	<p>○記号凡例や地図帳の構成、使い方など地図帳の使い方が具体的に示されている。(p. 4~7)</p> <p>○大きな鳥瞰図を多用し、生活や産業、建築物の絵を配置して、地域の様子を具体的にとらえられるようになっている。(p. 25~26)</p> <p>○「世界の国別統計」では、生徒の発達段階や国際情勢を考慮して、親しみやすい国名で標記されている。(p. 158~160)</p>	<p>○各資料に応じた写真や絵が多用されており、興味・関心を高めたり、思考の助けになったりするような工夫されている。(p. 27~28)</p> <p>○各地域の地図ページでは、地図を見る上での着眼点として「地図を見る目」が示されている。(p. 31)</p>	<p>○日本列島の地図では、竹島の写真と共に、日本固有の島根県の領土であること、韓国が不法に占拠していることが説明されている。(p. 78~79)</p> <p>○島根県について、さまざまな特産品、石見銀山が世界遺産であること、隠岐がジオパークに登録されていること、浜田港での水揚げ量が多いこと、原子力や火力の発電所があること、島根半島がリアス海岸であること、近年土砂災害が多いこと、津和野町や大田市で伝統的な町なみが保存されていることなどが示されている。(p. 87~89、91~92、139~140、143、148、151、155)</p>	<p>○資料中に「やってみよう」マークが示され、地図からの読み取りや思考、調べ学習を促すようにしてある。(p. 88)</p> <p>○世界各国の人口や各地の平均気温など、調べ学習に役立つ統計資料が6ページにわたり掲載されている。(p. 156~161)</p>	<p>○色が明るく、鮮やかである。</p> <p>○手ざわりが他の教科書等と異なるので、区別しやすい。</p> <p>○地図ページでは島根県の合併前の市町村名が記載されており、さくいんで探せる地名も多い。(p. 83~85、165~173)</p>	<p>○「やってみよう」「地図を見る目」など、生徒自身が自主学習しやすくなる手立てが多く示されている。</p> <p>○通常の地図だけでなく絵や鳥瞰図を多用して、各地の特色をつかみやすいものになっている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) 科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐむ要素を含む)
A	<p>○例題と直結した「たしかめ」、例題と同様な考え方で解く「問」、早く解けた生徒または少し発展的な問題の「もっと練習！」があり、節ごとにまとめた「基本問題」、章末に「章の問題A・B」で構成されている。</p>	<p>○1次方程式における比列式を利用の中で扱ひ、「比列式は方程式に直せる」ではなく「方程式の利用の中で比列式を活用する」という考えの意図が見られる。(1年p. 99～100)</p> <p>○平行と合同において、「説明のしくみ」から導入しており、本単元では様々な性質や定理をもとに説明力を習得させたいという意図が感じられる。(2年p. 91～94)</p> <p>○素因数分解の導入を因数分解の最初ではなく、平方根の単元の無理数かどうかの判断をするうえで初めて学習するようにしている。(3年p. 46～47)</p>	<p>○「数学の窓」で習った内容における数学の活用事例や雑学、または他教科とのつながりなど学習内容の有用性を感じることのできる内容が所々盛り込まれている。</p> <p>○巻末に数学の活用事例や学びを広げる教材が1つ1つ大きく記載されており、数学研究にも活用できる。</p>	<p>○「学び合い」でこれまで学んだことを、他者とともに解決し合うような課題を提示している。(3年p. 31～32, 141～143)</p> <p>○「数学マイノート」で、学習の過程をノートにまとめた例を示している。(3年p. 36～37)</p> <p>○数学を学ぶ有用性が実感できるよう、社会や職業における数学の活用が取り上げられている。</p>	<p>○巻末に過学年のふりかえり問題と当該学年の補充の問題があり、復習や補充のための配慮がある。</p> <p>○学びのつながりとして過学年の学習内容のまとめの一覧がある。(1年p. 228～232, 2年p. 176～177, 3年p. 212～217)</p> <p>○章末および巻末の「活用の問題」では、全国学力調査の数学Bの類題が取り上げられ、数学的な思考力や表現力を伸ばす課題がある。</p>	<p>○教科書の例題をデジタルファイル化してあり、数値を変えてワークシートを作成するなど利用価値がある。</p> <p>○立体の展開図をイメージしやすいように、冊子の上部にパラパラ動画が挿入されているなど細やかな配慮が盛り込まれている。(1年p. 177～205)</p> <p>○付録として「正多面体の模型」や「図形の性質発見器」、因数分解や平方根、三平方の定理の導入活用としての「図形パズル」などがある。</p>	<p>○デジタルコンテンツも充実しており、教師目線での教材開発にも力を入れている。</p> <p>○教科書1冊で様々な活用ができるよう、いろいろな要素を盛り込んでいる。</p> <p>○学習課題に対するイメージを持ちやすいような工夫や、活用に対する具体的な取り組みをしやすいような工夫がされている。</p>
B	<p>○例題と同様な考え方で解く「Q」、早く解けた生徒または少し発展的な問題の「プラスワン」があり、章の節目で見開き2ページの「練習」、章末に「章の問題」と学んだことを生かし解決する「いろいろな数学」で構成されている。</p> <p>○技能習得のための練習問題は見開き2ページの中に相当数盛り込まれており、章末では技能問題に偏らない問題構成になっている。</p>	<p>○正の数・負の数において、累乗の計算を乗法の学習の最後に位置づけし、その後で除法の学習をするようにしてあり、累乗が乗法の特別な表記であるという認識を持たせる配慮がある。(1年p. 40～41)</p> <p>○連立方程式の解き方では、代入法を先に学習するよう設定している。(2年p. 42～43)</p> <p>○平方根の単元で、有理数・無理数については計算を学習した後にするよう位置付けており、ある程度学習したところで扱うことでより理解が深められるというねらいが感じられる。(3年p. 68～71)</p>	<p>○学習したことが社会の中でどのように活用されているかを紹介した「社会にリンク」が各章末にあり、生活と数学のつながりを知ることで興味・関心につながる一助となっている。</p> <p>○問題やコラム等の中に全日本バレーやなでしこジャパンを題材にするなど、生徒にとって関心をひくような教材も盛り込んでいる。</p>	<p>○数学科で学習したことを活用して、テーマを設定して研究し、レポート作成を促している。研究の流れやまとめ方の例を挙げ、「社会にリンク」をはじめ日常生活での数学の利用事例を多く盛り込んでいる。</p> <p>○「研究しよう」「レポートを書こう」で学習したことについて研究し、レポートを書いたりするための手順や様式を例として紹介している。</p>	<p>○巻末にこれまで学習した内容の「基本のたしかめ」と「練習」、「総合問題」があり、総復習に活用できる。</p> <p>○必修内容ではないが「もっと数学！」でチャレンジ問題を盛り込んだり、「考えてみよう」で様々な考えを引き出すための課題が用意されている。</p> <p>○章末に「いろいろな問題」として、発展課題を章末問題と分けて設定している。</p>	<p>○例題の解法が穴埋め式になっていたり、完全に解答されていないなど、授業で取り扱う場合、そのまま解答が分からないように工夫されている。</p> <p>○グラフをかかせるうえでの配慮として、姿域のないグラフは限りなく伸びていくことを意識させるような工夫がしてある。(3年p. 105, 107)</p> <p>○教科書にグラフや図形をかき込むことを想定して、スペースを広く取るなどの配慮が見られる。</p>	<p>○一部未完成にしていることで、教科書を完成させながら学習していくスタイルとなっている。</p> <p>○章末は全体のまとめを2ページに収め、途中の練習問題を比較的多く設定して基礎基本の徹底を意識している。</p> <p>○1時間相当の授業内容が、ほとんど見開き2ページにまとめられていて、生徒にとっても教師にとっても見やすく作られている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) 科 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	
E	<p>○例題と同様な考え方で解く「問」、章の節目で学習定着の確認のための「確かめよう」、計算があるときは「計算力を高めよう」、章末に「まとめの問題」の基本と応用で構成されている。</p> <p>○全章にわたって類推、帰納、演繹の3つの考え方の大切さが取り上げられている。</p>	<p>○平方根の加法・減法の説明を図を使って表したり、二次方程式の平方完成においても図を用いるなど、視覚的なイメージを持ちやすい工夫がされている。</p> <p>○各節の終わりでは、生徒のイラストキャラクターが会話することで、生徒の疑問や考えに沿って、次の節につなげられるよう配慮されている。(1年p. 42)</p>	<p>○具体的事例を用いた課題や問題においては、「関連する職業・仕事」を記載しており、社会とつながりを知ることができる。</p> <p>○「クローズアップ」では、「0で割ること」「反比例なのに比例定数？」など、生徒の抱きやすい素朴な疑問などを扱っている。(1年p.46、142)</p> <p>○多角形の外角の和の説明をパラパラ動画で視覚的に分かるように工夫されている。(2年p.117～137)</p>	<p>○代数や幾何、統計など各分野の学習の最初にその分野の既習事項のふりかえりができるページがあり、これから学習することがその続きであることを認識するとともに、新しく学習する単元の準備ができるよう配慮されている。</p> <p>○巻頭には、小学校の内容をもとにした問題を使って、「数学で使われる考え方(類推、帰納、演繹)」を設け、数学的な見方・考え方を養う工夫がされている。(1年p. 8、2年p. 8)</p>	<p>○巻末に過学年の復習問題と当該学年の復習問題があり、状況に合わせて復習できる。</p> <p>○巻末に「深めよう」で、学習した内容をさらに深めたり広げたりする課題が用意されている。</p>	<p>○例題の解答が、ノートに書くときの例となるような提示のされ方をしており、問題を解くときの手本となる。</p> <p>○「空間図形」の冒頭に、仁摩サンドミュージアムの写真が掲載されている。(1年p.195)</p> <p>○章別の爪をすべてのページに設け、学習内容を探しやすいように工夫されている。</p>	<p>○課題に対する目の付け所や考え方、ノートへの書き方など細かいところまで気配りのされた教科書であると感じる。生徒だけでも教科書に沿って考えていけば学習できるといった形で完成されている。</p> <p>○巻末の「さらなる数学へ」「表現する力を身につけよう」に表現力を高めるガイドや発展的な課題を設け、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている。(1年p. 259～276)</p>
G	<p>○章の最初に、当該単元を学習するにあたって、必要な既習内容を復習する「学習の前に」がある。例題と同様な考え方で解く「たしかめ」、学習内容を活用して解く「問」があり、節ごとにまとめた「基本のたしかめ」、章末に「章の問題」で構成されている。</p> <p>○解答を2種類示すことで、解き方の違いを比較し、解き方について考えられるよう工夫され、自ら学習に取り組むことができるよう配慮されている。(1年p. 37、2年p. 24)</p>	<p>○章の最初に、その章に関連する既習事項を確認し、「Let's Try」で新しい要素を含んだ課題に取り組みながら学んでいこうという構成になっている。</p> <p>○因数分解の後に素因数分解を持ってきており、展開の流れを切らないように配慮されている。</p> <p>○例題等に基本的な設問がきちんと網羅されている。</p>	<p>○基礎的な学習をした後、発展的な内容の「チャレンジコーナー」や「ジャンプ」または学習の内容をさらに広げていけるように「数学の広場」といった課題や事例を提示している。</p> <p>○3種類のキャラクターを使い分け、基本的な内容から発展的な内容について助言を与え、学習に取り組みややすくする配慮がされている。(1年p. 104～105)</p> <p>○学習したことのよさを考え出せる内容が多く盛り込まれている。</p>	<p>○数学で大切にしたい考え方として6つの考え方を巻末に載せ、課題解決のための考え方をわかりやすく具体的にまとめている。</p> <p>○既習事項を使って考える問題には、既習の公式や条件、定理など「もどって確認」という欄が近くに設定してある。</p> <p>○「みんなで数学」は、複人数で学習できるような題材を取り上げ、思考力・表現力を高められるよう工夫されている。(1年p. 82～83)</p>	<p>○巻末に、「たしかめ」の補充問題として「たしかめの補充問題」と、当該学年の復習として「実力アップ問題」、過学年の内容も盛り込んだ「総合問題」があり、補充、復習、発展課題ができる。</p> <p>○活用課題「みんなで数学」や発展問題「チャレンジコーナー」があり、発展的学習についての配慮がある。</p> <p>○巻末の練習問題では、各問題が4つの観点別に自己評価できるようにになっており、各自で復習・確認できるよう配慮されている。(1年p. 54～55)</p>	<p>○各章末に、その章で学習した内容を簡単に確認できるように1ページにまとめた「学習のまとめ」がある。</p> <p>○別解なども多く、多様な考え方を重視している。</p> <p>○巻末には、ノートに貼ることのできるグラフ用紙が添付されている。(2年p. 247)</p> <p>○巻末には、カラー9ページを使って、「小学算数のまとめ」を掲載し、1年生の学習内容と関連づけながら復習・確認できるようにしている。(1年巻末)</p>	<p>○教科書では中学校で学習するカリキュラムについての基礎・基本をしっかり定着させようとする色が強いように感じる。ただし、実態に応じて学びを深めるための教材も章末に充実させている。</p> <p>○基礎基本の確実な習得のため、躓きに対しての対応がされている。誤解答などの記載もある。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) 科 No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	
M	<p>○例題と同様な考え方で解く「問」、章の節目で学習定着の確認のための「練習問題」、章末に「基本のたしかめ」で基礎基本の確認と「章末問題」で活用力を試す形で構成されている。</p>	<p>○平方根の導入では、有理数を平方根とする場合のみを扱い、根号を使った数はその後で学習する。そのため根号は有理数でない平方根のときに利用するといった認識となる可能性がある。 ○二次方程式の計算については平方根を求める形から導入し、解の公式の後に因数分解を利用した解法を学習する順になっている。</p>	<p>○学習したことをさらに深めたり、広げたりしてじっくりと考えて解決する課題として「千思万考」を章末に設定している。 ○学んだことがらと関係のある数学にまつわる話として「数学展望台」があり、章末には数学広場として発展課題や日常につながる課題を準備し、興味・関心につながる一助となっている。 ○学校生活での出来事など、身近な場面設定がされており、生徒の興味・関心を高めるような題材を取り上げるよう配慮されている。(2年p.118)</p>	<p>○MathNaviブックに、数学を活用した自由研究への取り組みを促し、その手順やレポートの書き方、複数のテーマ例を紹介している。 ○別冊のMathNaviブックで、各章の学習前に取り組みとよい「学びをつなげよう」や学習後に取り組みとよい「学びをいかそう」を取り扱い、実態に応じて活用できるように配慮してある。 ○「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」を設け、思考力・表現力を高められるよう配慮されている。(1年p.29)</p>	<p>○巻末に本編で学習した練習とまとめの「くり返し練習」と、これまで学習した内容のまとめの「まとめの問題」があり、補充と復習ができる。 ○巻末に「千思万考」で、学習した内容をさらに深めたり広げたりする課題が用意されている。 ○欄外に発展課題につながるような工夫が見られる。 ○巻末「数学広場」では、個人の興味・関心に応じて多様な活用問題に取り組むことができるよう配慮されている。</p>	<p>○操作的活動の一助となるよう、「円周角の定理発見ディスク」等ふろくがついている。 ○紙面デザインや配色などにも配慮がされ、誰にでも分かりやすい工夫がされている。 ○空間図形の導入で仁摩サンドミュージアムの航空写真が掲載されている。(1年p.166)</p>	<p>○計算においては、考え方や理由よりも手順を重視している感がある。 ○本冊(必修内容をまとめたもの)と別冊(練習問題や習熟度に応じた内容をまとめたもの)にわけること、本冊の基礎的・基本的問題を充実させている。</p>
N	<p>○例題と同様な考え方で解く「問」、章の節目で学習定着の確認のための「確かめよう」、章末に基礎基本の徹底問題として「基本問題」、難易度別に分けた「問題A」「問題B」で構成されている。</p>	<p>○平方根の導入では、有理数を平方根とする場合のみを扱い、根号を使った数はその後で学習する。そのため根号は有理数でない平方根のときに利用するといった認識となる可能性がある。 ○素因数分解の学習を3年の式の計算の単元の最後に持ってきており、次の単元である平方根でも活用することを配慮していることがうかがえる。 ○巻頭に過学年の基礎的・基本的な内容の問題「クイックチャージ」を設け、復習・確認した上で学習を進めることができる構成となっている。(1年p.4~13、2年p.4~13)</p>	<p>○例題の後に練習としてある問の中に、発展的な問題が少し設定してある。 ○数学の良さを学ぶことのできる内容の課題「やってみよう」が章末に設定してある。 ○巻末の「数学探検」では、身のまわりにある数学について話題を提供し、興味・関心を喚起させるような内容となっている。(1年p.225~238、2年p.175~186)</p>	<p>○巻頭と巻末の復習問題が充実しており、章末にははっきりとレベル分けされた問題が提示されているなど、基礎・基本を充実させるための配慮がされている。 ○成り立たない例を考えさせる課題や、理由を説明させる課題を取り上げることで、説明することや判断する機会を増やす工夫がされている。(1年p.53、177)</p>	<p>○巻頭と巻末に過学年の復習問題があり、当該学年の内容で基本問題から難易度の高い問題、応用力を高める問題などを詰り込んだ「チャレンジ編」がある。(3年p.230~269) ○必修内容ではないが、「発展」で学習した内容をさらに深めたりすることのできる課題が用意されている。 ○「NOTE」というコーナーを設け、ノートを取り方について助言することで、まとめる力や表現力を育成するよう配慮されている。(1年巻頭p.53)</p>	<p>○巻頭において過学年の既習内容を簡単にまとめた「クイックチャージ」を準備しており、教科書の学習を進める中でその既習内容を必要とする際に確認できるよう配慮されている。 ○表や図、式だけでなく、色分けを有効に使うことで、理解を促すよう工夫されている。(2年p.175~186)</p>	<p>○基礎・基本から発展までステップを踏んで学習させたいという意図が感じられる。 ○本文の記述は「例」と「問」中心としたシンプルな流れで学習内容が整理されており、理解を促す配慮がされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数 学) 科 No. (4)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
○	<p>○例題と同様な考え方で解く「問」、章の節目で学習定着の確認のための「基本の問題」、章末に基礎定着のための「くり返し練習」と章全体の学習定着の確認のための「章のたしかめ」、やや難易度の高い問題の「とくんでみよう」で構成されている。</p>	<p>○素因数分解の学習を3年の式の計算の単元の最後に持ってきており、次の単元である平方根でも活用することを配慮していることがうかがえる。</p> <p>○例・例題の解答例だけでなく、「問」にもノート形式で記述を用いていることで、ノートの整理や考えをまとめる際の参考となるよう工夫されている。(1年p.231、2年p.159)</p>	<p>○学んだ内容に関連した興味深い話などを紹介した「数学のたんけん」で、数学に対する興味・関心を深めようとしている。</p> <p>○各章の前に、その章につながる既習の問題を解かせて、新たな単元に対する事前準備をすることができるようにしている。</p> <p>○「生活への利用」や「深める数学」が、各章末に設けられ、その章で学んだことを深めたり活用したりすることで、興味・関心を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○新たな性質などを見つける活動、身のまわりのことさらに数学を利用する活動、方法や理由などを説明する活動の3つの数学的活動を意識した課題提示をしている。</p> <p>○中学生のキャラクターが、数学用語などを使って表現する場面などを示すことで、言語活動充実のための学習につなげられるよう工夫されている。(2年p.103)</p>	<p>○巻末にこれまでの学習内容で、基本的な内容をふりかえる「A問題」と活用力を伸ばす「B問題」、応用的な問題の「ステップアップ」があり、レベルに応じた復習ができる。</p> <p>○節末問題「基本の問題」と章末問題「章の確かめ」では、各問題が4つのどの観点に主にかかわる問題か明示し、各自で自己評価できるようにしている。</p> <p>○節末問題「基本の問題」と章末問題「章の確かめ」では、各問題が4つのどの観点に主にかかわる問題か明示し、各自で自己評価できるようにしている。(1年p.49、</p>	<p>○各章の中の節の中における小節を基本2ページにまとめてあり、学習テーマが分かりやすくなっている。</p> <p>○ユニバーサルデザインを意識した紙面構成になっている。</p> <p>○目次に小学校で学習した内容とこれから学習する内容のつながり分かりやすく記入されている。</p>	<p>○計算においては、手順を重視するように感じられるが、その手順説明は丁寧である。</p> <p>○学習したことが、できるだけ身近な生活とリンクして考えられるよう課題設定に配慮し、活用する力をつけさせたいとする意図が感じられる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理)科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	
A	<p>○基本定な内容が丁寧に記述されており、大きな文字で大変読みやすく、学習が進めやすいように配慮されている。</p> <p>○発展的な内容だけでなく、「活用編」として学習内容を活用する力をつけるような問題も工夫されている。(1年p.108)</p> <p>○実験方法が工夫されていて、短時間で準備から片づけまでを生徒ができるように工夫されている。</p>	<p>○実験の前に課題を明示して実験のステップごとに、詳しい説明を加え終了後にはわかりやすくまとめるといふつくりになっており、生徒が学習しやすい構成になっている。(1年p.124~126)</p> <p>○各章のはじめに、「これまで学んだこと」として既習事項が解説や写真で載っており、学習内容の系統が明確にしてある。</p> <p>○各実験の説明がイラストや写真を使い分かりやすく解説されている。さらに、結果の見方や考察のポイントが明確にしてある。</p>	<p>○スギナから孢子が飛散する写真のように鮮明で大きな写真やたくさんのイラストがレイアウトされ、興味・関心を高める工夫がされている。(1年p.57)</p> <p>○実験のまとめのあとで「学びを生かして考えよう」という課題を提示し、更に発展的な学習を用意している。</p>	<p>○こらむ「化学でGO!」や「ニッポンの科学」では、学習内容と日常生活を関連づけが図られている。(3年p.58~59)</p> <p>○単元ごとに「学びを広げよう」というコーナーを設け、長期休業中の課題となりやすい自由研究の手引きとして使いやすいうように工夫されている。(3年p.109)</p> <p>○「書く」「話す」が明記されており、「考える」「予想する」、「確かめる」など流れを追って科学的思考力が発達するように工夫されている。</p>	<p>○単元末に学習内容の振り返りができ、基礎的な内容の定着を図るような問題や学習内容を活用する問題が設定されている。</p> <p>○章末の「チェック」や単元末の「学習内容の整理」「確かめと応用」では、従来のものと比べ、学習内容の振り返りや基礎基本問題の定着が図れるように繰り返すことができる工夫がされている。</p>	<p>○「科学の本だな」という欄を設け、さらに自主的な学習や読書にもつなげる工夫が見られる。(1年p.137)</p> <p>○はじめに、レポートの書き方や考察のしかた、継続観察を促すページが設けられ、観察・実験をより深めるための配慮がされている。</p> <p>○各学年で、ペーパーラフトが付いていて、平面では把握しづらい部分をイメージしやすい工夫がされている。</p> <p>○巻頭に「学習内容のつながり」が記載されていて、既習事項の系統が明確になっている。</p>	<p>○学年のはじめに、探求の流れが例示されており、学習の進め方が明確になるよう工夫されている。</p> <p>○単元のあらゆる場所にマークを明記し、学習内容に関する問いかけや関連する内容、安全のための注意などがわかりやすくなるように工夫している。</p> <p>○学習の流れが明確になるように、実験においては目的が一文で表現され、何を実験すればよいのかを示している。</p>
B	<p>○気体の性質の一覧表などのように、学習した内容や結果がコンパクトにまとめられており、生徒が理解しやすい内容となっている。(1年p.94~p.95)</p> <p>○単元の導入で、既習事項とこれからの学習内容を見やすく示しており、見通しをもって学習できるように工夫してある。</p> <p>○単元末に終章を設け、単元の学習内容を総合して考察するような発展的な課題を設定してある。</p>	<p>○実験の前に課題をはっきり提示し、実験の結果と実験から分かることを明記するという構成であり、生徒が目的をもって、実験に取り組めるつくりとなっている。</p> <p>○観察・実験において、結果の整理と考察のポイントが明確にしてある。</p> <p>○基礎的な実験のほか、「もっと」では、さらに深い内容や身近な材料を使った実験について紹介している。</p>	<p>○かわいい中学生の男女や先生のイラストで、これからの学習のポイントを説明するという形式で要点を押さえてあり、生徒の興味を惹きやすいつくりとなっている。</p> <p>○各単元で、たくさんの発展的テーマが設定され、理科への興味・関心が高められるようにしている。</p> <p>○「トピック」では、学習内容と日常生活を結びつきを図り、「科学史」では科学の歴史や科学者に関する話題を紹介し、興味・関心が高められるようにしている。</p>	<p>○単元末だけでなく、章末ごとにも問題を用意し、自分で解答を考えることで科学的な力を育成しようとして試みている。</p> <p>○「くらしの中の理科」では、理科や科学が日常生活や社会の中でどのように活用されているかを知ることができるような例が豊富に取り上げられている。</p> <p>○単元によっては、既習事項だけでなく、他教科との関連づけが分かるように明記されている。</p>	<p>○単元末問題では多くの設問が用意され、自主学習に十分な量が確保されている。</p> <p>○章末のまとめが美しく整理され、生徒が利用しやすい内容となっている。</p> <p>○単元末に、「読解力問題」と「サイエンスランド」を設け、思考力や表現力を高める工夫がされている。</p> <p>○小単元ごとに学習内容を確認する「問い」を設け、次ページに解答を掲載することで細かく確認しながら学習をすすめるように工夫されている。</p>	<p>○重要な事柄やまとめが朱色のマーカーで塗られていて目をひきやすくなっている。生徒が教科書を見たとき、「ここが大事なんだな」と分かる工夫がされている。</p> <p>○「サイエンスランド」では、2つの項目が問題と解答という形でつながるような問題を自作させるような課題も用意するなど、科学的な力や創造力をかき立てる内容となっている。</p> <p>○「ものづくり」についての内容が多く設定されており、学習内容を日常生活につなげて活用するように工夫されている。</p>	<p>○小単元ごとに「トピック」「くらしの中の理科」「科学史」などの資料や、発展的な内容が設けられ、主体性をもってより深く学習を進めていきやすい構成になっている。</p> <p>○観察・実験では、結果の例が写真と図を使いながら表しており、想定される結果からの考察が明確になるように工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理)科 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
E	<p>○各単元の導入において、既習事項のチェックから始まり、その後新しく学ぶことを示すことで、見通しをもって学習できるように工夫している。(1年p.5)</p> <p>○実験の基本操作が丁寧に取上げてあり、同じ実験でも数種類の実験器具について取り扱い方が説明してある。また、常に写真や図を用いて視覚的に理解しやすい。</p>	<p>○写真や図、表などが見やすいように大きく配置してある。</p> <p>○観察・実験において、結果がそのまま記入できるようにしてあり、次のページに結果例と考察とまとめを詳しく示すことで、学習内容を整理して理解しやすいように構成されている。(2年p.96~97)</p>	<p>○「科学を仕事に生かす」では、学習内容や科学について実際の職業と結びつけながらたくさん内容が紹介され、科学を学ぶ意義やその有用性が実感できるように工夫されている。(2年p.210~211)</p> <p>○「チャレンジ」では、身近なもので実験可能なものづくり等が様々な種類が紹介され、興味・関心を高める工夫がされている。(3年p.108)</p>	<p>○単元の終末に、学習内容のまとめや基本的な用語が整理されており、「活用しよう」では学習内容を身近な事象と結びつけて考えさせる場面を設けている。(3年p.120)</p> <p>○「話し合ってみよう」や「問い」を設け、個人またはグループで考え、表現する力をつけるよう工夫されている。(3年p.229)</p>	<p>○単元途中に豊富に「科学の窓」を設け、学習内容と関連する内容や日常生活とつながりのある内容を写真やイラストを交えながら紹介し、さらに学習内容が深まるよう工夫されている。(2年p.233)</p> <p>○レポートやグラフの書き方、公式を使った計算方法などの基本操作がともしっかり丁寧に示されており、確認しやすいように工夫されている。</p>	<p>○各学年の巻末資料が豊富で、学年が進むごとに詳しくなっている。特に、既習事項については実験器具の使い方など、前の教科書がなくても確認できるように高学年になるほど充実させるなど工夫している。(3年p.286)</p> <p>○巻末付録で原子カードがついており、原子や分子を粒子モデルで考えやすい工夫がされている。</p>	<p>○既習事項を確認しながら、系統的に学習を進めやすい構成になっており、基礎・基本の定着が図りやすいように工夫されている。</p> <p>○観察・実験の結果例が写真や詳細なスケッチで示され、結果や考察の例も参考にしやすいように配慮されている。</p> <p>○「科学の窓」等の資料が多岐にわたって豊富に設定されており、他教科とのつながりも明確に示してあることで、興味・関心を高めながら学習がより深く広がるように工夫されている。</p>
G	<p>○文字の大きさが小さく、しっかり解説や説明、紹介などがされているため、全体に分量が多い印象を与える。</p> <p>○気体の一覧表のまとめのように、その他の性質や用途の説明などの発展的な内容も詳しく解説してあり、程度の高い内容である。(1年p.34~35)</p>	<p>○最初の単元を使って具体的に理科学習の進めかたを解説しており、これからの学習をスムーズに進めることができる構成となっている。(1年p.2~7)</p>	<p>○学習の結果から発展につながる読み物資料の「ハローサイエンス」を2年の「動物の世界と生物の変遷」の1単元だけで28項目も用意するなど、生徒の興味・関心を惹きつける内容となっている。</p>	<p>○1つ1つの実験に対して具体的に課題を提示することで目的をしっかりと把握して、実験に取り組みさせている。また、「まとめ」でその課題を解決していくことで、自分の考えを検証できるようになりとなっている。(3年p.44)</p> <p>○「まとめ」のあとの「活用しよう」で、より深く考える機会を与えている。</p>	<p>○単元末問題や学年末問題には、基礎・基本問題や活用・応用問題に多くのページを割いており、自主的な学習にも十分対応した内容である。</p> <p>○発展的な学習の導入となる「ハローサイエンス」も充実した読み物となっている。</p>	<p>○巻末の付録に、実用的な簡易カメラ(1年)や星座早見盤の作成シートをつけるなど、生徒にとっても実用的な教科書となっている。</p>	<p>○1つ1つの単元ごとに、課題の提起からまとめ、解説まで大変詳しい記述がしてあり、生徒の自主学習にも十分対応できる教科書であり、教師にとっても、授業用というよりも教材に使いたくなるほど、話題も豊富な内容となっている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理)科 No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐむ要素を含む)
M	<p>○章の導入ページには、前時の学習や既習事項を振り返ることができるように写真やイラストを利用する工夫がされている。(2年p.126)</p> <p>○教科書の本文が、見開きの中央に配置されていて、目の動きが、本文を読むときは、自然と上から下へ、図や写真を読み取るときも上下の動きに制限されるように工夫されている。</p>	<p>○問題集をいくつも購入するのではなく、教科書を読むとマイノートが記入できるように becoming になっていて、生徒個人で学習できる工夫がされている。</p> <p>○マイノートの左側には、用語の確認があり、右側には、その用語を使って解答できる仕組みになっていて、日本語指導が必要な生徒にとっても取り組みやすい課題となっている。</p>	<p>○「部活ラボ」では、生徒にとって、身近な部活動の中での科学の話題を取り入れ、日常生活の中で科学を感じることができるよう、工夫されている。(1年p.205)</p> <p>○「はたらく人に関してみよう」では、理科の学習がどのように将来生かされているのかをイメージしやすく、キャリア教育にも関連付ける工夫がされている。(2年p.161)</p>	<p>○青色シートの導入や学習内容の確認から応用問題へのスムーズな流れによって、家庭学習の時間を確保することができる。</p> <p>○「サイエンス資料」では、算数や数学と関連付けて理科の学習ができるように工夫されていて、さらに、計算方法も順を追って、解き進めることができるようになっていて。(1年マイノート p.70)</p> <p>○「サイエンス資料」では、実験を安全に行う上での注意事項を各自で確認できるようにチェックリストが設けられている。(1年p.115)</p>	<p>○各単元の「学習のまとめ」では、カラーユニバーサルデザインを配慮した青色シートを取り入れ、色覚の個人差を補う工夫がされている。(1年p.54)</p> <p>○「学習のまとめ」や別冊の「マイノート」では、学習内容の確認・基本問題・応用問題という一連の流れがあり、系統性のある問題を繰り返し学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○実験・実習は、教科書の見開き、マイノートの見開きに位置付けられており、一目で、実験の目的から、予想、結果、考察へと思考が移行できるように工夫されている。</p> <p>○化学変化後の色の変化などが、言葉で表現されていて、色覚の個人差を感じさせない仕組みがされている。</p> <p>○「活用してみよう」では、ips細胞などの最新の情報を取り上げていて、理科の学習を身近なものとしてとらえることができる工夫がされている。(3年p.27)</p>	<p>○「わたしのレポート」では、レポートの書き方や結果から気づいたことなど、他者の意見や表現方法も取り入れることができる工夫がされている。(1年p.182)</p> <p>○ICTを活用した学習方法を書く単元で取り入れており、視覚的に支援できる工夫がされている。また、図版もその時の数値に合わせて変えることができ、生徒自身の実験結果と照らし合わせることもできるため、発展的課題にも対応することができる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(音楽)科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
G	<p>○多くの楽曲や様々な資料が取り上げられている。</p> <p>○写真や図を多く取り入れた音楽史のまとめに10ページを充てる等、資料が豊富である。(2・3年下p.54)</p> <p>○鑑賞教材のページをまとめ、ページ右端に音楽史の時代区分を示すことで、時代をイメージした鑑賞ができるよう工夫されている。(p.25)</p>	<p>○日本の歌曲、外国の歌曲、ポピュラーソング等、洋邦・今昔の作品をバランスよく学習できるように構成されている。(p.4、10、12)</p> <p>○3ページ分の見開きを各巻2箇所取り入れ、特に注目してほしい題材や総合的に理解してほしい内容に目が行くように工夫されている。(p.33、巻末口絵③)</p>	<p>○作者のメッセージを多く、イメージして鑑賞したり、歌ったりできるように工夫されている。(口絵②、1年p.17他)</p> <p>○邦楽への興味を高めるために、若手邦楽プレイヤーを表紙裏に見開きで紹介している。</p>	<p>○「音のスケッチ」では、音楽の能力にかかわらず、生徒が創作活動に取り組みやすいように具体的な創作方法が示されている。</p> <p>○日本歌曲の学習において、まず歌詞を持つ我が国の詩情を味わうために、美しい写真とともに紹介している。(p.4、81)</p>	<p>○鑑賞教材において、教科書の中に学習シートを取り入れ、分析、整理、プレゼンテーションの順に学習を進めながら、音楽科における言語活動が深まるよう工夫されている。(p.25～26)</p> <p>○「Let's Try」では、より発展的に取り組むことができる内容になっている。とくに「指揮をしてみよう」のページでは、既習曲を使って学習を深めることができるようになっている。</p>	<p>○現代の課題に対応したITと音楽の問題や著作権についての題材を取り上げている。(p.50)</p> <p>○ロール式の楽譜など新しい形の音楽標記を取り入れている。(p.40)</p>	<p>○我が国の音楽を中心に、世界の様々な音楽を、豊富な資料とともに取り上げている。</p> <p>○特に発展的な題材では、教科書の中に作業シートを豊富に取り入れ、学習手順を明確に示すことで、言語活動や創作活動など最新の課題に、グループ活動等で取り組めるように工夫されている。</p> <p>○歌曲においては詩や写真で感性に訴える配慮がなされている。また、理論のまとめでは分かりやすい図表を用い、学習のねらいが明確となるよう工夫されている。</p>
H	<p>○巻頭に音楽学習MAPを配し、全編の教材の構成や相関を分かりやすく図示している。</p> <p>○「学習の窓口」では、音楽の基礎的事項をマーク化して、各教材の冒頭部分に学習目標とともに示し、ねらいをはっきりさせている。(p.3)</p> <p>○鑑賞の教材はまとめて配置し、縁取りをつけ、芸術的な雰囲気を高めている。(2・3年下p.32)</p> <p>○「耳でたどる音楽史」では、洋邦の音楽を豊富な資料とともに分かりやすくまとめている。(2・3年下p.74)</p>	<p>○日本歌曲の教材では、歌詞や情景など作品のイメージを大切にするとともに、伴奏を含めた楽譜の体裁もよく、生徒が詩情を感じながら学習できるよう配慮されている。(2・3年下p.4、12、22)</p> <p>○合唱曲は生徒の声の成長に合わせて、同声2部合唱から混声2部、3部合唱へ無理なく移行できるよう配慮されている。</p>	<p>○記号や音符について楽しみながら学習できるゲーム的な教材を取り入れている。(2・3年下p.8～9)</p> <p>○「My Voice!」では、歌曲の学習に合わせて、発声法について図で分かりやすく示している。</p> <p>○口絵では、我が国の伝統楽器や舞台芸術について美しい写真とともに紹介し、邦楽に対し生徒が興味を持てるよう工夫されている。</p>	<p>○「My Melody」や「Let's Create!」では、音楽の能力にかかわらず、具体的な手順に従って創作活動ができるよう工夫されている。</p> <p>○日本の民謡や長唄などを、声の特徴を感じ取り、実際に歌ってみることができるよう分かりやすく示されている。(1年p.46、2年上p.44)</p>	<p>○鑑賞教材においては、言語活動と結びつけた学習ができるように、グループ活動を通した、分析からプレゼンテーションへ至る学習を取り入れている。</p> <p>○「発展的学習」として、幅広く文化や歴史と関連づける内容が豊富である。(1年口絵4、p.34、39、2年上口絵4、p.18、33、37、40)</p>	<p>○「Yesterday」では、英語詞を全文掲載してあり、英語科と連携した学習が行えるよう工夫されている。(2・3年下p.19)</p> <p>○現代の課題に対応し、音楽とITや著作権についての解説を、Q&Aの形で分かりやすく取り上げている。(2・3年下p.50)</p>	<p>○限られた時間の中で効率的に学習が進められるように、教材の配列や関連する学習事項の相関性を示して構成されている。</p> <p>○教科書の中に作業的なワークシートを取り入れ、生徒の主体的な学習を促すための工夫がなされている。</p> <p>○図や写真とともに、楽譜の体裁等にも配慮し、ゆとりのある読みやすい紙面である。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(器楽)科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
G	<p>○アルトリコーダー、ギターを中心に、和楽器では特に箏を中心に、様々な楽器の学習に対応できる資料が取り上げられている。</p> <p>○奏法の習得に必要な解説を写真や図で分かりやすくまとめ、指導者とともに学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○アルトリコーダーの学習では、基本から段階的にかなり高いレベルまで課題を配置するとともに、ソプラノリコーダーでも学習できるよう教材が工夫されている。</p> <p>○ギターの学習では、クラシックからポピュラーに至る、やや高度な課題が取り上げられ、本格的な演奏が楽しめる。</p> <p>○和楽器では箏に10ページ、三味線に8ページ分の資料が示され、基礎から発展まで学習できる。</p>	<p>○「手作りの横笛」では、3ページの見開きを活用し、実際に水道管で横笛を作ることで、作業を通して楽しく学習できるよう工夫されている。</p> <p>○リコーダーの課題一つ一つに短いアドバイスが付けられており、見て分かりやすいように工夫されている。(p.7、15)</p>	<p>○さまざまな日本の横笛を紹介する中で、郷土の音楽にも触れられるように工夫されている。</p> <p>○参考楽譜として本格的な邦楽譜(縦譜)を取り上げ、(地域講師等により)より専門的な指導が行えるよう配慮されている。</p>	<p>○和楽器の学習に合わせて、日本音階による創作活動まで発展させられるように工夫されている。(p.69)</p> <p>○箏の特殊奏法にふれるなど、高いレベルにチャレンジできるよう工夫されている。(p.39、81)</p>	<p>○巻末3ページ見開きを利用して、ギターの指使いなどを写真や図で示し、生徒がそれで調べながら学習できるよう工夫されている。</p> <p>○リコーダーの学習課題には、コードネームが付けてあり、指導者が簡易伴奏しやすいように配慮されている。</p>	<p>○各楽器の基本解説については、写真や図を使い、視覚的に分かりやすいよう配慮されている。</p> <p>○各楽器の演奏では、基礎から課題を積み重ね、かなり高いレベルまで到達できるよう、多様な教材を豊富に取り上げている。</p> <p>○楽器の製作や和楽器によるメロディー作りなど、作業や活動を通して発展的に学習するための題材を取り上げている。</p>
H	<p>○「学習MAP」では目次をマップ化して視覚的に分かりやすくするとともに、基礎的事項をマークで示し関連が分かるよう工夫されている。</p> <p>○各楽器の紹介や基本奏法では、多くの写真を分かりやすく配置し、視覚的に捉えられるよう工夫されている。</p>	<p>○アルトリコーダーの学習では、基礎的な奏法について段階的に教材が配置され、少しずつ音域を広げていくよう工夫されている。</p> <p>○ギター、箏については基本奏法から簡単な楽曲の演奏までを扱い、他の楽器については、楽器の紹介や基本的な楽器の奏法を中心にコンパクトに分かりやすくまとめられている。</p>	<p>○巻末名曲スケッチでは、クラシックの名曲を作曲者の肖像とともに紹介し、楽器の演奏を通して生徒がクラシック音楽にも興味を持つよう工夫されている。(p.86)</p> <p>○学校に多く配備されている小物打楽器を取り上げ、その正しい奏法を紹介している。(p.46)</p>	<p>○口絵「いろいろな長さの笛」では、郷土芸能で使われている笛にも着目できるよう工夫されている。</p> <p>○太鼓の教材では、生徒が郷土の祭りや伝統芸能に興味を持つよう工夫されている。(p.38)</p>	<p>○「グレードアップ」ではリコーダーを主とした合奏に、グループ活動を通して発展的に取り組めるよう課題が構成されている。(p.51、53)</p> <p>○「テキーラ」では打楽器を使った発展的な創作活動が、グループ活動として行えるよう課題を工夫している。(p.55)</p>	<p>○p.56以降は、各楽器を使用した様々なスタイルのアンサンブルが紹介されており、各学校や生徒の実態、備品の状況に応じて使い分けられるよう工夫されている。</p>	<p>○各楽器の特徴や基本的な奏法について、写真等を使いわかりやすくまとめている。</p> <p>○リコーダーを中心に、学校への普及率の高いギターや箏、また小物打楽器類を有効に使って学習できるよう、題材のバランスに工夫している。</p> <p>○各楽器のページでは基礎的な内容を中心に取り上げ、後半の「アンサンブル」の部分で発展的な内容につなげられるよう工夫されている。</p> <p>○基礎的事項のマークを通して、歌唱や鑑賞の題材との関連が取りやすいよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(美術)科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
D	<p>○2・3年生を1冊にまとめており、コンパクトである。</p> <p>○題材ページの最後に自己評価ができるように視点が示されている。</p> <p>○制作過程を参考作品とともに全6ページにわたって掲載するなど、学習が深まるような内容になっている。(2・3年p.12~17)</p>	<p>○題材ごとに技法についての説明もなされており、授業の流れやポイントが端的に示されている。</p> <p>○表現と鑑賞が関連し合っって提示してあるので、制作と鑑賞に一貫性がある。</p> <p>○BENTO文化と伝統工芸、文化遺産としての富士など、日本の今をとらえて題材化している。(1年p.42~43、2・3年p.6~9)</p>	<p>○美術を学ぶ本質的な目的を巻頭に記述しており、学習への期待と興味・関心を高めている。(1年p.2、2・3年p.2)</p> <p>○日本美術の技法についても制作方法を紹介しており、表現をふまえて鑑賞できるよう工夫されている。(2・3年p.45)</p>	<p>○原寸ギャラリーとして、美術館などで鑑賞するような、直に本物を見るような感覚を味わえるように工夫されている。(1年p.27、2・3年p.47)</p> <p>○美術が暮らしの中でどう活かされているか、身近な例をあげて紹介し、美術への関心や学習意欲を高める配慮がされている。(2・3年p.10~11)</p>	<p>○生活に活かせるような題材を取り上げ、作品で学校環境を豊かにしたり、他学年や校外とのつながりなどを提案している。(1年p.32~37、p.46~47、2・3年p.69)</p> <p>○題材ページに制作の手順や技法の資料が掲載されており、見通しを持って制作したり、表現活動に活かしたりできるよう工夫されている。</p>	<p>○見開きページや、日本独自の絵巻物の理解のために右から左へ見ていくなどのレイアウトが工夫されている。</p> <p>○作品が分断されないよう紙面を横長に使った構成にも特徴がある。(1年p.16~17)</p>	<p>○絞った題材で制作に見通しを持ちながら活動できるように工夫しており、様々な表現方法を紹介するなどして、生徒のオリジナリティも発揮できるように配慮されている。</p> <p>○制作している姿や作ったものを活用している生徒の写真が数多く掲載されており、美術がより身近なものであることを感じさせる教科書になっている。</p>
J	<p>○各領域、表現や鑑賞の内容がバランスよく取り上げられている。</p> <p>○生徒にとって親しみやすい内容が取り入れられている。(1年p.7、21~33、2・3年p.20、37、58~59)</p> <p>○日本の伝統文化への理解を深め、親しむことができるような内容が多く取り入れられている。(1年p.28~33、37、2・3年p.22、37、62~67、69)</p>	<p>○アイデアノートやマッピングを紹介し、発想や構想の段階を重視した構成となっている。(2・3年p.53、57~59)</p> <p>○各巻ともに、画材や技法、素材などについての資料が豊富に取り上げられた構成となっている。(1年p.46~65、2・3年p.78~91)</p> <p>○美術と生活のかかわりを考えたり、学んだことが生活の中でどう生かされるを示した教材が多く取り上げられている。(1年p.17、21、40、2・3年p.5~7、39)</p>	<p>○発想の切り口となる問いかけやヒントが示されており、表現の手掛かりが引き出されるような配慮がされている。</p> <p>○発想段階から作品完成までの過程を「みんなの工夫」として紹介し、作品づくりの見通しが持てるよう配慮されている。(1年p.10、32~33、2・3年p.11)</p> <p>○折り込み見開きページが効果的に使われており、生徒の興味を引き付ける工夫がされている。(1年p.23~26、2・3年p.41~44)</p>	<p>○レポートの作成や話し合いなど、感じたことや考えたことを友だちと交換したり共有する活動が紹介されている。(2・3年p.52、56~57)</p> <p>○社会に目を向けた題材など、美術が果たす役割を考えさせる内容が多く取り上げられている。(2・3年p.50~53、56~57、72)</p> <p>○島根の伝統工芸や作家作品が取り上げられている。(1年p.19、2・3年p.35)</p>	<p>○美術館の楽しみ方や2・3年巻末の豆知識、題材に関連したコラムは、生徒の興味・関心を広げる内容となっている。</p> <p>○用語解説やトピックが掲載されており、美術史の要点をおおまかに理解することができる。(2・3年p.92~100)</p> <p>○道徳の関連事項が示されており、制作やデザインの学習などを通して、福祉、生命、平和、生き方などを考えるように作品などが取り上げられている。</p>	<p>○作者のことばや詩が効果的に添えられており、生徒の情感に訴えかけるような工夫がある。(1年巻頭、p.22、27、2・3年巻頭、巻末、p.26~27、40、45)</p> <p>○2・3年の学習内容が1冊にまとめられており、教科書を効果的に活用しながら学習が進められるように工夫されている。</p>	<p>○生徒の発達段階や興味・関心に合った題材や参考作品が、各領域でバランスよく取り上げられている。</p> <p>○鑑賞教材として、作品の原寸大写真や部分的に拡大した写真が印象的に取り上げられており、生徒の興味・関心や学習意欲が高まるように工夫されている。</p> <p>○作品づくりを通して思いや考えを深めていけるように、完成作品だけではなく発想や構想段階のスケッチを数多く掲載している。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(美術)科 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
○	<p>○各巻とも表現と鑑賞の題材が領域ごとにバランスよく取り上げられている。</p> <p>○各巻「出会い」「深まり」「探求」をテーマに据え、発達段階に応じて学習を深めていけるような内容となっている。</p> <p>○日本の伝統文化や美意識についての理解を深め、大切にすることを育むような内容が多く取り上げられている。(1年p.48～49、2・3年上p.22～37、57、2・3年下p.2～4、24～29)</p>	<p>○参考作品には、生徒作品や古今東西の作家作品が豊富にバランスよく取り上げられている。</p> <p>○観点別のねらいが示されており、生徒がめあてを意識し自己評価しながら学習できるように配慮されている。</p> <p>○「教科書美術館」と題して、ひとつのテーマに視点をあて、より深まりのある鑑賞活動ができるように工夫されている。</p> <p>○第一線で活躍するアーティストや伝統工芸に従事する職人の中でも若い女性作家を紹介し、身近な存在として興味関心を高めている。(1年p.32、2年p.4)</p>	<p>○見開きページ全面に大きく取り上げられた作品は、細部や筆触まで感じ取れるもので、生徒の興味・関心をひきつける工夫がされている。</p> <p>○生徒の興味や創作意欲が喚起されるような作品提示の工夫がされている。(1年p.10、50、2・3年上p.7、2・3年下p.15)</p> <p>○作者のことばや作品解説が分かりやすく示されており、鑑賞や作品理解の手助けとなるよう配慮されている。</p>	<p>○アジアや西洋とのつながりにも視点を当て、よさや違いを感じるができるように工夫されている。(2・3年上p.24～25、30～31、50～52)</p> <p>○美術が、私たちの暮らしや社会の問題とどのように関わっているかを考える題材が豊富に取り上げられている。(1年p.32～47、2・3年上p.36～49、2・3年下p.16～17、32～47)</p> <p>○作品構想やレポートの作成、話し合いやプレゼンなど、考えたことやイメージをことばで表現する活動が取り入れられている。(1年p.48～49、2・3年上p.12～13、41、43、2・3年下p.33)</p>	<p>○制作の手順や素材や技法の紹介など生徒の創作活動を手助けする資料が豊富に掲載されている。</p> <p>○参照ページを示すことにより、関連題材や資料を生徒が自由に探せる工夫がされている。</p> <p>○道徳の関連項目が示されており、福祉や環境、人権、平和などさまざまな問題に目が向けられるような作品が取り上げられている。(1年p.21、33、2・3年上p.42～43、2・3年下p.30、47)</p>	<p>○作品だけでなく、作家の考え方や生き方にも触れられる内容が取り入れられている。(1年p.32、2・3年下p.2～4、6～7)</p> <p>○2・3年の上巻では、鑑賞ページに和紙が使用されており、落ち着いた風合いや触感が感じ取れるような工夫がされている。</p> <p>○紙面がA4ワイドサイズになっており、より大きな迫力のある画面で作品を鑑賞できるようになっている。</p>	<p>○3年間の成長に合わせて、自己を見つめたり他者や社会とのかかわりを深く考えさせるような題材が取り上げられたりするなど、拡がりのある内容構成となっている。</p> <p>○対象のとらえ方や新たな視点を提示するなど、生徒の興味や学習意欲を喚起し、表現の工夫につながる内容が取り入れられている。</p> <p>○美しい紙面構成や作者の思いを大切にした作品群、2・3年下巻末の詩など、生徒の情感に訴えかける教科書となっている。</p> <p>○生涯にわたって美術に親しむことができるよう表現や鑑賞のしかた、体験活動が紹介されている。(1年p.18～19、2・3年下p.50～52)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(保健体育) 科 No. (1)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<p>○見開きを1単位時間とし、導入は「今日の学習」を設け、学習の見通しを持つことができるように編成されている。</p> <p>○各章の扉に、小学校、中学校、高校で学習することを明示し、学習の系統性に対応した内容に工夫されている。(p. 5、33、45、63)</p>	<p>○「今日の学習」「やってみよう」「考えてみよう」「生かそう」を、学習の流れに即して配置され、レイアウトに沿って学習を進めることで、基礎的・基本的知識が習得されるよう工夫されている。(p. 8~9、34~35、38~39)</p> <p>○各章末に「確認の問題」「活用の問題」「学習のまとめ」を設け、自己評価できるよう工夫されている。(p. 30~32、60~62)</p>	<p>○各ページ下に「保健体育クイズ」を設け、生徒の興味・関心に応じて学習を広げていくことができるよう工夫されている。(p. 7、47、131)</p> <p>○生徒の興味・関心を高め、学習内容を深めるよう読み物資料が掲載されている。(p. 19、39、73、156)</p>	<p>○各章末に「章末資料」を設け、関連する補充資料を掲載し、探究的な学習ができるよう工夫されている。(p. 28~29、40~42、100~106)</p> <p>○運動や、健康・安全に関する内容を、科学的に理解させるための必要な資料を掲載されている。(p. 17、21、48)</p>	<p>○「他教科マーク」では、他教科の学習内容との関連を示し、系統的、発展的な指導ができるよう工夫されている。(p. 6、59、112、121)</p> <p>○「生かそう」では、家庭で行える学習課題や、学習内容に関連した自分の地域について調べる学習も紹介されている。(p. 39、69、141)</p>	<p>○巻頭に「スポーツの力」「スポーツを支える人」「健康や安全を支える人」「運動やスポーツと食事」等、スポーツが持つ様々な力や、キャリア教育・食育にも視点を置きダイナミックな紙面で興味・関心が高まるよう工夫されている。(口絵p. 1~2、3~6、7~8)</p>	<p>○習得した知識を活用する「考えてみよう」や各章末に「章末資料」を設け、幅広い知識と教養が身につくよう、また、「確認の問題」「活用の問題」「学習のまとめ」を設け、確かな知識の習得と活用ができるよう工夫されている。(p. 27~32)</p> <p>○学年別に保健編、体育編で構成され、各学年の学習内容が明確になり、見通しを持ち学習に取り組めるよう工夫されている。</p>
B	<p>○生涯にわたり豊かなスポーツライフを送る必要性や楽しさ、それを支える食事や職業等が、写真等の資料で理解しやすく掲載してある。(口絵p. 1~9)</p>	<p>○各章の扉には、その章の課題を理解し、学習内容の見通しがもてるように学習の流れが示してあり、各章で学習することがわかりやすい。(p. 45)</p> <p>○各章の初めにある「考えよう」は、身近な疑問を問いかけることで、学習に興味を持ちスタートできるよう工夫されている。(p. 4)</p>	<p>○近年、世界で活躍する日本や海外の選手を多く紙面で紹介するなど、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。(口絵p. 1~30、36~39)</p> <p>○学習内容と関連の深い話題や情報が「ミニ知識」や「トピックス」として紹介され、学習を広げたり、深めたりできるよう工夫されている。(p. 55)</p>	<p>○県の課題である「体力の向上」について見開きの6ページにわたって掲載し、トレーニングの仕方やマイトレーニングのつくりかたについても具体的に示している。(p. 26~31)</p>	<p>○体育編、保健編のそれぞれ終わりに「発展」のページが用意されていて、さらに学習を深めたいと思った生徒が取り組めるようにしている。(p. 43、149)</p> <p>○各単元の最後に示されている「学習を活かして」は、学習したことを整理し、理解を定着させ、自分の生活に活かせるようにするために有効である。(p. 55)</p>	<p>○教科書のめくり側に各章ごとの色分けがされていることや、AB変型のワイドなつくりにより、めくりやすくなっている。(p. 43、149)</p>	<p>○色覚などの個人差を問わず、より多くの人に必要情報が伝わるようにユニバーサルデザインに配慮した色遣いがされている。</p> <p>○AB変型のワイドサイズで、少ないページ数でありながら、学習内容を補うグラフや表などが多く配置され、本文の内容が理解しやすくなっている。(p. 72)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(保健体育)科 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐむ要素を含む)
L	<p>○中学生にとって重要だと思われる学習項目は4ページで構成され(通常項目は2ページ構成)、生活に関連した情報を提供されている。(p.14~19、122~125)</p> <p>○本文を薄黄色にし、注や図表と区分し、見やすい紙面構成になっている。</p>	<p>○各章の始に、「Question」を設け、その章で学ぶことを大きくつかむことができるよう工夫されている。(p.4、6、42、92)</p> <p>○学習項目を代表する重要語句を「キーワード」にまとめる工夫がされている。(p.6、46、76)</p>	<p>○理解を助ける興味・関心のある話を「コラム」として、実際にあったこととして参考になるものについては、「事例」として紹介されている。(p.120、127、131、135)</p> <p>○わが国で4回目となるオリンピック・パラリンピックが開催されること、これまでの日本人選手の活躍や、2020年大会で活躍が期待される選手を掲載されている。(口絵p.1~2)</p>	<p>○県の課題である「体力の向上」について、体力を高める運動の事例を具体的に紹介し、自分の課題を把握し、運動計画を教科書に書き込む等体力向上について工夫されている。(p.16~19)</p> <p>○実際に体を使って理解する必要がある教科の特性である内容を、「実習」として設けてある。(p.103~106)</p>	<p>○2ページで構成されている項目の最後に自ら考え、判断し、表現する力が身につくよう「Try」を設け工夫されている。(p.5、7、33、43、75)</p> <p>○欄外に、その項目に関連したインターネットのページが紹介され、自ら調べ学習が取組めるよう工夫されている。(p.21、29、35、61)</p>	<p>○教科書の側面に、体育編・保健編の別、章番号、項目名を表示し、章ごとに色分けをし、検索しやすいように工夫されている。(p.45、75、95、139)</p>	<p>○前半に体育編、後半に保健編で構成され、他の項目に関連する内容がある場合は、参照ページが示され、体育と保健の関連性を高められるよう工夫されている。(p.15、27、45)</p> <p>○本文の背景を薄黄色とし、注や図表と区別し、メリハリのある見やすい紙面構成になっている。(p.42、43等)</p>
P	<p>○生殖機能の成熟の内容は、見開き4ページの構成され、排卵・受精・着床の仕組みについては、図と写真を組み合わせてとてもわかりやすく説明されている。(p.14~17)</p> <p>○各章の扉では、小・中・高それぞれの段階での学習内容を示し、見通しが持てるように、系統性を重視した内容で構成されている。(p.8)</p>	<p>○教室で扱う頻度が高いと思われる保健編を教科書の最初に、体育編を後半にそれぞれ扱っているので見開きがしやすい。(p.7、131)</p> <p>○各章の冒頭に「ひと」という資料を載せ、学習内容に関連する人物を紹介することで、学習内容と社会の関連性や学習内容の広がりを持たせるようになっている。(p.35、57、85)</p>	<p>○表情豊かな優しい印象を与えるイラストを各章で使っている。(p.27)</p> <p>○口絵や資料、コラム等では、全国各地の身近な題材や中学生の事例を取り上げて、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(p.45、71、97)</p>	<p>○県の課題である「体力の向上」の指標となる新体力テストの実施方法を見開き2ページで掲載し、測定結果の活用法についても分かりやすく説明している。(p.171~173)</p> <p>○言語活動や協働的な学習に必要な活動や実習を「言語」や「協働」マークで分かりやすく示されている。(p.73、87、117)</p>	<p>○発展的学習が行えるよう、その時間に関する具体的な課題が「探究」として示されている。(p.65、81)</p> <p>○各章の終わりにある「章のまとめ」は、「用語の確認」、「基礎の完成」、「活用の問題」に分類した問題で構成されており、自学自習するのに活用できる。(p.82~83)</p>	<p>○オリンピック・パラリンピックに関して「探求しよう」、「資料」で8ページとし、内容を充実させ、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて興味・関心を持たせるようにしている。(p.166~167、175~178)</p> <p>○防災教育を重視し、本文に加え、特集を4ページ設けて、様々な自然災害について学習できるよう工夫されている。(p.66~71)</p> <p>また、体育分野との関連も図っている。(p.154)</p>	<p>○総ページ数が184で、資料が豊富である。</p> <p>○心の健康を重視し、いじめを取り上げ、コミュニケーション、欲求不満やストレスへの対処を充実させている。(p.23、29)</p> <p>○各章の扉に、学習内容に関連した仕事を紹介し、キャリア教育につながるよう工夫されている。(p.9、35、57)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(技術)科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<p>○各内容ごとの章末に、評価・活用のページを設けている。(p. 84～89、140～145)</p> <p>○184～187、250～253)</p> <p>○AB版のサイズで図や表、写真が大きく示してある。</p> <p>○全体で274ページを使い、内容的にもバランスよくボリュームもある。</p>	<p>○1単位授業で学習ができるよう、見開きページで示されている。</p> <p>○各内容の章末に重要語句をまとめた「大切な用語」が示されている。(p. 90、146、190、254)</p>	<p>○「技術と匠」というコラムで、日本の技術や技術者を紹介している。(p. 21、61等)</p> <p>○巻末に防災手帳を導入し、防災に対する技術や備えを記述してある。</p> <p>○ほとんどのページの下に「ひとくち」コーナーが設けてある。</p>	<p>○実習の流れが1ページ内で横長に見渡せ、作業の一連の流れをイメージしやすくなっている。(p. 74～75、174～175、246～247)</p> <p>○地域の栽培環境に対応した栽培暦や日本の伝統野菜などの事例が記載されている。(p. 160～163)</p>	<p>○発展的な学習内容には「発展マーク」がつけられ、明示されている。</p> <p>○各内容の最後には「まとめの学習」とともに「生活にいかそう」のように課題が設けられ、自主学習等につなげることができる。(p. 91、147、191、255)</p>	<p>○安全・防災に関する記述が随所にみられ、日常生活を安心して過ごすための知識や災害への備えにつなげることができる。(p. 2～5、36、109、127)</p> <p>○時代の最先端であるAR技術が盛り込まれている。(p. 38～39、99等)</p> <p>○また、インターネット上のデジタルコンテンツとの接続も可能となっている。(p. 27、29、31等)</p>	<p>○現行の学習指導要領で重要とされている「評価・活用」に関して随所に記述がなされ、また編末にはワークシート例も掲載され、学習の見通しや授業の流れが見やすくなるように工夫されている。(p. 89、145、189、253)</p> <p>○AB版になっているため、作業手順などを一目で確認できたり、図表や写真が大きく数多く掲載されている。(p. 74～75、174～175、246～247)</p> <p>○将来を見据えて学習ができるように巻末には「技術分野の学習を将来に生かそう」が設けられたり、「防災手帳」が付録としてつけられ、防災、減災への意識</p>
C	<p>○各内容の学習の見通しを、1ページにおさめたチャプターで示している。(p. 14～17)</p> <p>○文章表記は重要語句を太字にしている。また、絵や図を多く用いることで読みやすいレイアウトになっている。</p>	<p>○各内容の最後に、章末問題を設けている。(p. 91、145、201、261)</p> <p>○「実験」のコラムで、1単位授業で完結できる実験を紹介している。(p. 28、123)</p>	<p>○作業の手順の順序に、写真と図を並べ番号が振られている。(p. 36～46)</p> <p>○加工の際の手元を細かく分割した写真で掲載されている。(p. 40)</p>	<p>○「材料と加工」における実習の手順が、写真と図を並べて掲載し、14ページものページ数を割いて丁寧に取り扱いがされている。(p. 34～47)</p> <p>○「生物育成」におけるたねまきから収穫までの一連の流れを2ページ見開きで10ページにわたり掲載し、図や写真とともに丁寧に解説がセットになっている。(p. 160～169)</p>	<p>○「調べよう」や「考えよう」という吹き出しが設けられ、家庭や地域で取り組める課題が出題されている。(p. 87、89、198等)</p> <p>○A～Dの編末には「まとめ」と「章末問題」が設定され、自主学習に役立てることができる。(p. 90～91、144～145、200～201、260～261)</p>	<p>○生徒が主体的に学習する際のヒントとすることができるように、実習題材内に適宜「コツマーク」がついている。(p. 31、36、37等)</p> <p>○持続可能な社会の実現のためのリサイクル、エネルギーの問題や節約などについての記述が随所にされている。(p. 23、29、61、140～143、195、198～199等)</p>	<p>○実習題材や「実験」「実習」がたくさん取り上げられているため、生徒がそれらを参考に、主体的に実践的・体験的な学習活動が期待できる。</p> <p>○言語活動の充実、情報モラル、持続可能な開発のための教育、安全・防災教育、伝統文化、国際理解など、今日的な教育課程についてバランスよく学習できるように配慮がされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(技術)科 No. (2)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
D	<p>○各内容ごとの章末に、評価・活用のページを設けている。(p. 84～89、130～133、170～173、238～241)</p> <p>○文章中の漢字が1年の学習程度の表記である。</p> <p>○各章ごとにページが色分けされている。</p>	<p>○実習例の一部に、「工夫してみよう」のトピックがある。(p. 47～51等)</p> <p>○付録資料でコンピュータの使用方法を示している。(p. 250～261)</p>	<p>○全ページの下に豆知識が掲載されている。</p> <p>○全ページの右上に、各内容で用いる工具や道具、機器が掲載されている。</p> <p>○メモ、参考、実験、ふり返りなどのトピックは、直接記入できるようになっている。(p. 73、133～134、173～174、242)</p>	<p>○多様な実習例が取りあげられている。(p. 47～52、124～129、160～169、218～237)</p> <p>○技術の歴史の内容が伝統文化と共にふんだんに紹介されている。(p. 2～3、7、20～21、92～93、136～137、176～177)</p>	<p>○発展的学習として、学習内容について社会で生かされている例が「参考」で示されている。(p. 85、130～133)</p> <p>○巻末に小学校の学習内容「コンピュータの基本操作」が掲載されている。(p. 250～261)</p>	<p>○小中の連携や他教科との連携について、ガイダンスにおいて意識づけがされるよう工夫され、また「リンクマーク」により明示されている。(p. 4～5、12、85、121、167)</p> <p>○環境、持続可能な社会について考えるための記述が「環境マーク」で示されている。(p. 12～13、23、33、130、239、248～249)</p>	<p>○「ガイダンス」に加え「技術分野の出口」が新設され、ABCDの4つの学習を終えた後に、生徒がこれからの生活、社会の中で、技術分野で学んだことをどう生かしていくかについて振り返ることができる。(p. 244～249)</p> <p>○各内容が「導入」、「基礎学習」、「展開」、「まとめ・評価」の順で構成され、問題解決的な学習が展開でき、系統的な学習が進められる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(家庭)科 No. (1)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	
A	<p>○文字や写真や図が大きくてバランスもよく見やすいようになっている。 ○実習や生活に生かすために必要な内容を「基礎技能」としてまとめてあり、必要な時に調べやすくなっている。</p>	<p>○「食生活」「衣生活・住生活」「家族・家庭と子供の成長」「消費生活と環境」の順に構成されており、「衣食住」といった身近な内容から学ぶことができる。</p>	<p>○実習例のページでは、写真を豊富に使い、流れをわかりやすく示されており、生徒がイメージをもちやすいよう工夫されている。(p. 52～57、208～209)</p>	<p>○調理の手順が段階を追って写真付きでポイントを押さえながら記載されているので、理解しやすくなっている。(p. 60～63) ○調理の参考例が豊富で、地域や生徒の実態に合わせて選択できる。(p. 64～65、72～73、78～79) ○調理の参考例が豊富で、地域や生徒の実態に合わせて選択できる。(p. 64～65、72～73、78～79) ○問題を解決する道筋や意思決定のプロセスが具体例を用いて分かりやすく示されている。(p. 14～15、252～255)</p>	<p>○全体的に基礎的な内容が分かりやすく載せてあり、巻末には「言葉のページ」があり、家庭分野でよく使われる言葉について調べられるようになっている。(p. 270～271) ○分かりやすい「資料」のページがあり、他教科や他の家庭分野とのつながりも示されている。(p. 108、250) ○「調べてみよう」「やってみよう」「生活に生かそう」などの見出しで実践課題が提案されており、生徒が取り組みやすいように工夫されている。</p>	<p>○4人の中学生が、あらゆるポイントで登場し、学びのサポート役をしていて親しみやすくなっている。</p>	<p>○AB版のため写真や資料が見やすく、全体的にゆったりとした感じを受ける。(p. 168～169) ○編、章ごとに小口に爪が設けてあり、必要な内容が探しやすくなっている。</p>
C	<p>○詳しい図や解説付きで、資料が豊富で分かりやすくなっている。</p>	<p>○包丁の使い方や材料の切り方、身の回りの布製品の構成などが写真や図、解説などで分かりやすく記載されている。(p. 106～107、202～203)</p>	<p>○各章の初めに「クイズ」や学習内容に関係する実物写真等が掲載されており、興味関心をもって取り組めるようになっている。(p. 68～69、228～229) ○章毎に「自立度チェック」や「考えよう」「キーワードチェック」が設けられており、課題や興味関心をもって取り組めるようになっている。</p>	<p>○「実習」「参考」では、生活に根ざした身近な問題について見つめなおし考えることができるようになっている。(p. 73、253、268～269)</p>	<p>○中学生にとって身近なものを例に挙げて、難しい問題も考えやすいように配慮されている。(p. 238、252) ○「コラム」には、詳しい内容が記載され、先を見通した考えが養えるように配慮されている。(p. 265) ○「学習のふり返り」が自主的にできるように考えられている。(p. 142、270)</p>	<p>○ファミリンとライフンが案内役で一緒に学習していく設定になっており、親しみやすくなっている</p>	<p>○全体的に図や解説が多く、生活体験の少ない生徒にも分かりやすく構成されている。(p. 110～111)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(家庭)科 No. (2)

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
D	<p>○文字と写真のバランスがよく、見やすいものとなっている。</p>	<p>○章毎に、「話し合ってみよう」「参考」「ふり返ってみよう」「考えてみよう」等があり、ポイントを押さえて学習できるように工夫されている。</p>	<p>○「課題」では、日常何気なく目しているものを詳しく分析し発展的に考え実践できる内容になっている (p. 87、219)</p> <p>○下欄に「豆知識」が掲載されており興味関心を高めるように工夫されている。</p> <p>○「幼児の成長」では、実物大の手形や写真を多く掲載することで、興味をもたすよう工夫されている。(p. 20~23、30~31)</p>	<p>○「実験」では、調理実習で失敗しやすい内容についてそうならないように、比較したものを掲載している。(p. 103、111)</p>	<p>○「探求」や「発展」ではより広い視野にたって考えることができるように配慮されている。(p. 20~23、30~31、242~243)</p> <p>○途中で「ふり返り」をしながら、編の最後で「学習のまとめ」ができるようになっている。(p. 79、93、125、135、141、245)</p>	<p>○学習の際の事故防止や安全・衛生について「安全マーク」で注意を喚起している。(p. 43、100~101、192~193)</p>	<p>○基礎的な事柄から発展的な事柄まで系統的に掲載されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語)科 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<p>○各学年の教科書の総ページ数及びUnit数は、1年151ページ、11Unit、2年151ページ、7Unit、3年151ページ、6Unitである。</p> <p>○各Unitの題材や目標等の一覧表が掲載され、見通しをもって学習できるよう工夫されている。(全学年p.2~3)</p>	<p>○本編はUnit、Daily Scene、Presentationの3部を組み合わせ学習し、習得から活用への流れを通じて、コミュニケーションの能力が養われるよう構成されている(全学年p.2~3)</p> <p>○見開きの左側に本文と語句、右側に基本文・基本練習などを配した構成になっており、教科書に直接記入するスペースも十分にある。(1年p.38~39)</p>	<p>○学習した題材に関連する情報を紹介する「一言メモ」や「コラム」が随所にあり、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(3年p.11、63)</p> <p>○Dairy Sceneでは、電話や食事などの具体的な場面で使える表現を扱い、学習内容が身近に感じられるよう工夫されている。(1年p.64~65、3年p.16~17)</p> <p>○Dマークでデジタルコンテンツを使用できるようになっている。</p>	<p>○各パートのRead and ThinkのQ and Aでは、回答の記入欄を設け、書く所をつけていけるよう工夫されている(2年p.11、13)</p> <p>○1年のSpeak & Writeで基本文型を応用した英作文の問題に取り組むことにより、学習内容を定着される工夫がされている。(1年p.41、43)</p>	<p>○学び方コーナーでは、辞書の使い方や発音の仕方などが示してあり、主体的に学習する力が身につくよう工夫されている。(1年p.37、52、53、115)</p> <p>○全学年巻末にあるBonus Word Boxに加えて、裏表紙のWord Roomには身近に使える語句をジャンル別に示し、表現の幅を広げるよう工夫されている。(3年裏表紙)</p>	<p>○例を参考にしながら詩を書く題材が扱われており、英語に親しみながら表現力をつけるよう工夫されている。(2年p.90~91)</p> <p>○教科書サイズがAB版でゆとりがある。</p> <p>○Hi, English!やUnit0で小学校英語から円滑に接続ができる。</p>	<p>○国際協力、伝統文化、環境、平和、福祉、職業などの幅広い内容を扱い、それぞれの内容について考えさせることができるよう工夫されている。(2年p.96、3年p.54、58)</p> <p>○Presentationではモデル文に加えて別表現を使った複数の例文が示され、表現力を養うよう配慮されている。(2年p.114~115、3年p.18~19)</p>
D	<p>○各学年の教科書の総ページ数及びPROGRAM、Readingで構成される単元数は、1年151ページ、11単元、2年151ページ、12単元、3年143ページ、9単元である。</p> <p>○1年PROGRAM1で、見開き全面にアルファベットを3~4回書き込んで練習できるようにするなど、丁寧に文字指導ができるよう工夫されている。(1年p.18~19)</p>	<p>○見開き左側に基本文Basic Dialogや練習問題、右側に本文を掲載し、新出の文構造を学習した後に運用の仕方を学ぶ構成となっている。(1年p.72~73)</p> <p>○各単元後のPOWER-UPでは4技能の1つを焦点化し、学習内容を発展させたい活動を行えるよう工夫している。(1年p.28)</p>	<p>○題材に登場する国々や都市の位置を地図で示すことで、生徒の興味・関心を高めたり、題材への理解を深めたりするよう工夫されている。(2年p.19、47、76、97)</p> <p>○巻末資料の単語と熟語に、その単語にまつわる文化や言語についての知識を載せ、関心・意欲を引き出すよう工夫されている。</p>	<p>○各学年巻末に3年間の「できるようになったことリスト」を示し、英語学習の見通しと課題・振り返りの意識をもって取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○各学年とも2~4単元終えたところでMy projectを配置し、思考力・判断力・表現力を身につけるための総合的・統合的な活動の機会を設けている。(2年p.36、72、106)</p>	<p>○各学年とも単元間に「英語のしくみ」を設定し、学習内容を整理し、練習問題に取り組みながら定着させていけるよう工夫されている。(2年p.16、17)</p> <p>○各学年に辞書の活用を示したページを設定し、「辞書を引く」「情報を読む」「使いこなす」という段階をおって学習できるように工夫されている。(1年p.23、2年p.7、3年p.7)</p>	<p>○1年巻末に添付された「アクションカード」を活用することにより、一般動詞の意味や用法の定着を図る工夫がされている。</p> <p>○教科書サイズがAB版でゆとりがある。</p> <p>○Let's startで小学校英語から円滑に接続ができる。</p>	<p>○基礎・基本習得のためのBasic Dialogとコミュニケーション能力習得のためのPOWER-UPやMy projectが段階的に配置され、自ら発信する力を育むよう工夫されている。(1年p.78~84、86)</p> <p>○人の生き方や平和の希求について扱い、それぞれの内容について考えられるよう工夫されている。(3年p.38、84)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語)科 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習、自主学习についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
E	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は、1年157ページ9Lesson、2年163ページ8Lesson、3年163ページ7Lessonである。</p> <p>○各「Lesson」に設けられた「Review」では、基本本文の復習や長文読解などを通して学習内容が定着するよう工夫されている。(2年p.74~75)</p>	<p>○1年の最初の単元の導入で一般動詞likeを用いるなど、外国語活動から円滑に接続するように配慮されている。また、新出と既習の基本本文を対比させ、文型の違いを区別しやすくしている。(1年p.20、75)</p> <p>○各学年とも4つの「Chapter」にそれぞれ「Chapter」内の「Lesson」の学習を通して目標が達成できるようになっている。</p>	<p>○「Braille」では、実物の点字を掲載し、実際に点字に触れることで生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(1年p.110)</p> <p>○2年で日本の昔話「泣いた赤おに」を取り上げたり、全学年で世界的に有名な英語の歌を楽譜付きで掲載したりして、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(1年p.59、2年p.76、92、3年p.78)</p>	<p>○各「Lesson」の終わりに「Review」を設け、Speaking、Listening、Reading、Writingのコーナーで、4技能の定着を確認するよう工夫されている。(2年p.24~25)</p> <p>○「Chapter Project」では既習事項を使った表現活動に段階的に取り組み、4技能をバランスよく身につけるよう配慮されている。(3年p.90~93)</p>	<p>○各学年の巻末付録に、「つづりと発音」について示しており、つづりと発音の関係を覚えることができるよう工夫されている。(1年p.135、2年p.137、3年p.128)</p> <p>○「Word Tree」ではテーマに関連する語彙や言い方を複数紹介し、表現の幅を広げる工夫がされている。(1年p.29、45、2年p.118~119、3年p.18~19)</p>	<p>○「Check It Out」の文法説明では、品詞ごとに色分けをしたり、日本語の語順と対比したりして、視覚的に理解を促すよう配慮されている。(1年p.84)</p> <p>○Pre-lessonやLet's startで小学校英語から円滑に接続ができる。</p>	<p>○各「Chapter」の扉に学習を通してどんなことができるようになるか明示している。(1年p.19、2年p.5、3年p.5)</p> <p>○全学年の各「Lesson」の最後に配置されている「Review」では、基本本文の復習問題や長文読解問題などを扱い、4技能をバランスよく身につけるよう工夫されている。(2年p.14~15)</p>
F	<p>○各学年の教科書の総ページ数及び「Lesson」数は、1年159ページ9Lesson、2年159ページ8Lesson、3年159ページ7Lessonである。</p> <p>○基本本文導入のための「GET」の本文が短いため音読しやすく、全学年ブロック体で表記されている。(1年p.70~75、2年p.70~73、3年p.88~91)</p>	<p>○「GET」の基本本文には、「現在完了(継続)」や「間接疑問」などの文法用語や意味が表示されており、文法事項を整理して学べるよう配慮されている。(3年p.12、90)</p> <p>○新出基本本文を習得する上で有効な言語材料が「Word Bank」にあり、「Practice」での活用を通して、基礎・基本を身に付けることができるよう工夫されている。(3年p.41)</p>	<p>○各「Lesson」の扉にはその単元の目標がテーマ性のある写真や絵とともに明記されており、見通しがもてるよう工夫されている。(1年p.87、2年p.23、3年p.11)</p> <p>○「USE」の「Read」には、物語、コラム、メールなどの多様な英文を取り上げ、学習内容を活用につなげる配慮がされている。(1年p.104~105、2年p.16~17、3年p.92~94)</p>	<p>○3年間の学習のしめくりとして、英語とかかわりながら働く人々や島根県出身のプロテニスプレイヤー錦織圭を題材として扱い、自分の将来と英語のかかわりを考えることができるよう工夫されている。(3年p.108)</p> <p>○「Project」では、4技能が統合された活動に取り組みすることで、学習内容が定着するよう工夫されている。(1年p.46~47)</p>	<p>○「For Self-study」で、辞書の引き方や学習方法など、自主学習を行うためのヒントを紹介している。(1年p.86、2年p.84、3年p.86)</p> <p>○付録には、発展的な読み物教材や文法、音の説明、ジャンル別の単語の一覧等が取り上げられ、学習内容を確かめたり深めたりできるよう工夫されている。(2年p.116、126、128、136)</p>	<p>○プレゼンテーションやディスカッションに焦点を当てた単元を設定し、表現力を高めるよう工夫されている。(2年p.85~98、3年p.102~103)</p> <p>○Get Readyで小学校英語から円滑に接続ができる。</p> <p>○教科書サイズがAB版でゆとりがある。</p>	<p>○基本本文導入の「GET」では、全学年にわたって音読しやすい短い本文になっており、繰り返し読むことができるよう配慮されている。</p> <p>○国際理解、人権、福祉、環境、平和等の今日的な題材が取り上げられており、生徒の課題解決や社会貢献の意欲を高める内容になっている。(2年p.23、112、3年p.38、70、104)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語)科 No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容, 程度, 分量等	2. 教材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 発展的学習, 自主学習についての工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
G	<p>○各学年の教科書の総ページ数は、1年本冊143ページ別冊48ページ9Lesson、2年本冊143ページ別冊40ページ8Lesson、3年本冊143ページ別冊36ページ6Lessonである。</p> <p>○1年では身近な話題・文化比較、2年では環境・福祉・職業、3年では日本の伝統文化・世界で活躍する日本人など、各学年に応じたテーマが設定されている。(2年p.66~77)</p>	<p>○各LessonをHop、Step、Jumpの3段階のパートに分けて基礎から発展につながる構成になっており、各パートごとに学習の目標が明示されている。</p> <p>○Lessonを2~3終了したところでJumpのProjectが設定され、4技能を統合した活動を行う構成になっている。(1年p.48~49)</p>	<p>○国内だけでなく、アジアや北欧、アフリカなどの複数の国々を題材として取り上げ、興味・関心を高めるよう工夫されている。(2年p.84、94、96、98)</p> <p>○題材に過去の偉人その他、現在世界で活躍している日本人を複数取り上げ、生徒の興味・関心を高める内容となっている。(3年p.60、64、66)</p>	<p>○巻末に3学年文のCan-Do自己チェックリストを掲載し、4技能別に到達目標や関連箇所を示し、目標や課題を確認できるようになっている。(全学年p.142)</p> <p>○各学年JumpのProjectは、まとまった量のつながりのある文章を書く指導へ発展できる内容になっている。(1年p.84~85)</p>	<p>○各学年の巻末付録に辞書の引き方を紹介し、自学自習につながるよう工夫されている。(1年p.128、2年p.110、3年p.92)</p> <p>○全学年に別冊が設けられ、本冊のページに対応させた進出後や基本文に関する問題が掲載され、赤色シートを用いて繰り返し復習できるよう工夫されている。</p>	<p>○1年巻末に織り込みでPCキーボードの図を示し、ローマ字入力でのタイピング方法が解説されている。</p> <p>○著作者の1人に田尻悟郎先生が入っている。</p> <p>○Sprin gboardで小学校英語から円滑に接続ができる。</p>	<p>○本冊と別冊の2冊で構成左例、別冊は授業での利用だけでなく、生徒自身で繰り返し復習できるように工夫されている。</p> <p>○巻末に3学年文のCan-Do自己チェックリストを掲載し、4技能別に到達目標や関連箇所を示し、目標や課題を確認できるようになっている。</p>
J	<p>○各学年の教科書のページ数及び「Unit」数は、1年167ページ11Unit、2年159ページ9Unit、3年151ページ7Unitである。</p> <p>○球技大会やバンド練習など中学生にとって身近な出来事を題材の中心にしなが、それらに関連付けて世界に目を向けるよう工夫されている。(1年p.108~116)</p>	<p>○1年から3年までの各「Unit」の本文は、登場人物たちが中学校でのさまざまな出来事や経験を通じてともに成長している。</p> <p>○各「Unit」の冒頭に関き取り活動を設定し、「Unit」本文の概要を把握できるよう工夫されている。(1年p.69)</p>	<p>○各パートの「Try It!」で取り上げる場面は、本文とつながりのある登場人物のやりとりを設定し、好奇心を喚起できるよう工夫されている。(1年p.123)</p> <p>○「Unit」本文は、中学生の様々な出来事や経験で展開されているので、ともに考え、共感しながら学習できるよう工夫されている。(1年p.108~114)</p>	<p>○「CLIL」で他教科の学習内容について、英語を使って考える学習が設定されている。(1年p.88、2年p.44、3年p.34)</p> <p>○各パートの上欄に音読回数のチェック欄を設けたり、長文の読み物教材の最後に使用語数を明記したりして、自分の取り組みを振り返られるよう配慮されている。(1年p.30、143)</p>	<p>○各学年の「YourCoach」で、辞書の使い方やまとまりのある文章を「読む」「書く」「聞く」力をつけるためのポイントが解説されている。(1年p.26、58)</p> <p>○各学年の「Word Square」で様々なカテゴリーに関連する単語や語句を示し、自己表現活動の幅を広げるよう工夫されている。(1年p.90)</p>	<p>○イラストを見て登場人物のセリフや心理を考えさせる場を設定し、コミュニケーション能力を育む配慮がされている。(1年p.112、2年p.30)</p> <p>○Let's Enjoy English!で小学校英語から円滑に接続ができる。</p> <p>○教科書サイズがAB版でゆとりがある。</p>	<p>○中学生の登場人物たちが日常生活の様々な経験をとおして成長していく物語の構成になっているため、各場面を身近に感じながら学習を進めていけるよう工夫されている。</p> <p>○各「Unit」の冒頭の聞き取り活動をとおして、「Unit」全体の概要を把握して学習に入ることができるよう工夫されている。</p>